唐土訓蒙圖彙巻之七

器用之一

器用

此部ハ上古の器より農具無のをて器舟車筆硯文房の類ハ後にまとなし

卣 古器 上古ハ酒をすゝうつわものなり

罍 神をまつりところに酒を盛うつわもの也

斝

酒をとりうつはのごとき玉の器なり

觚

これも酒をとりて張ざるをもて用ひしなり

杯

酒三合をとりうるさ二寸七分ふかさ二寸六分ひろさ二寸三分

敦

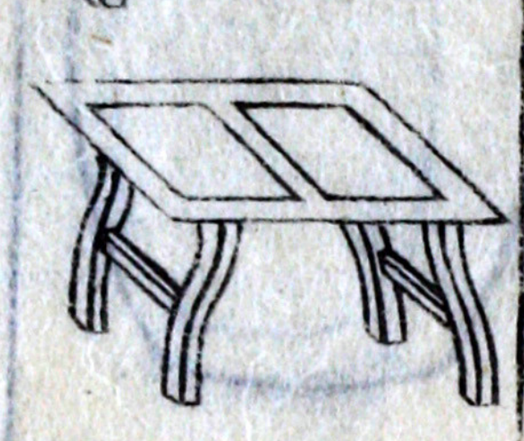
黍稷をもていれうつはものなり

鋪

豆と
器に似てひ
ろうつはもの也
濡へるものを
もるうつはなり

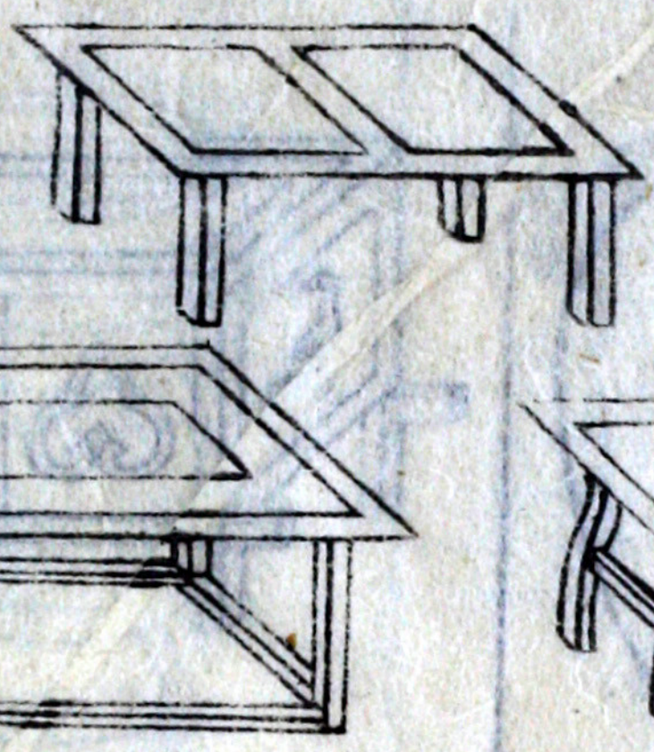
擬

鹵の器
也こしらへ俎の
如擬の木のもの
もるこしらへる



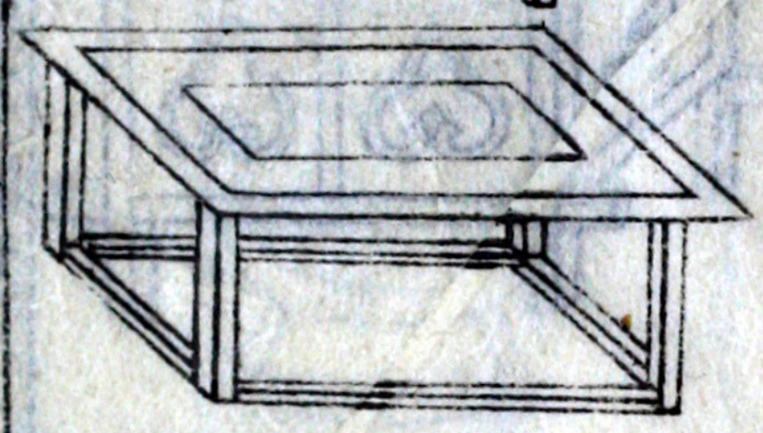
俎

長さ
二尺四寸巾乃
ふとさ



厳俎

稜俎
て横木わ
ものなしまつ
乃器也



尾鱗

天と
祭るに用る也
中に五斗を受
口の径一尺脛
の高さ二寸

畢

肉とわ
ものなり

林示

長四
尺廣さ二尺四寸
足の高さ三寸漆
と以て中と赤く
ぬる太夫士の用
ゆる一献のもの
なり

櫥

長四尺廣さ二尺四寸深さ五寸饌を陳ずるものなり その式ハ案のごとくなり

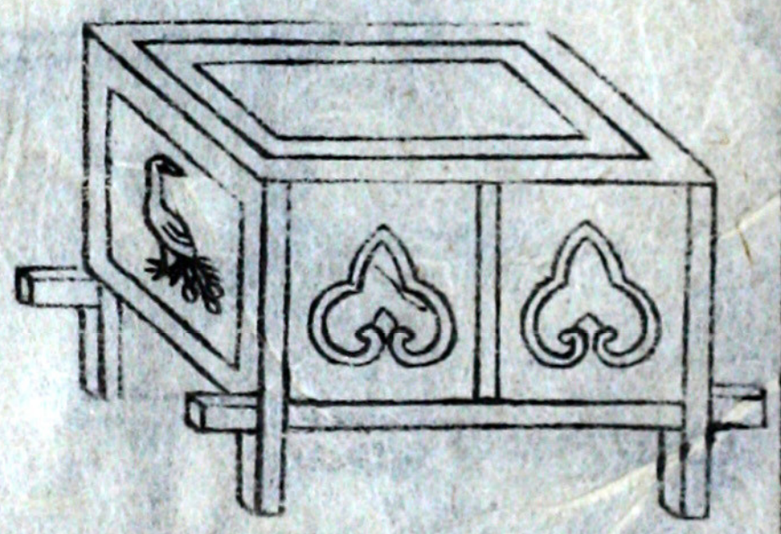
甕缶

醯醢と實ずるの器高一尺八三寸と受いぬくものなり

鍑

羹

一斗を盛るものなり三足にして兩耳あり



大壘

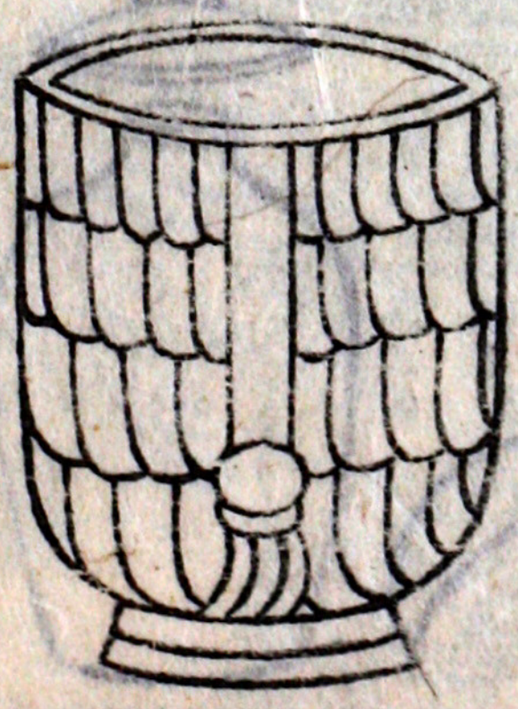
瓦をもつくれり 尊し 社土の神をまつるに用ゆ これ土と氣と尚ゆへなり

瓢齎

門をまつるにこれを用ゆ 瓢を尊として門の害を除くなり

辰虫

山川四方をまつるにもちゆ

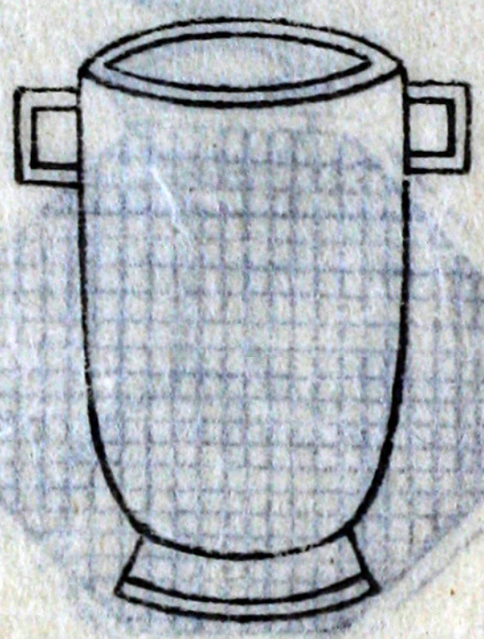


觴

觥と同し野牛の角を以て作る
さうつさまれる
四討爲閑なり。
兕ハ野牛一角アリ
青色重サ千斤

鬴

四升
と豆といふ四豆
と區といふ四區
と鬴といふ量の
異名し六斗四升
量



巵

黑
漆の尊し朱の
帶と腹につき
絡へつき

散尊

の飾なきを
といふし

庾

二穀
と實つこし地を
量る器甕也と
以てこれとつる

鳥彝

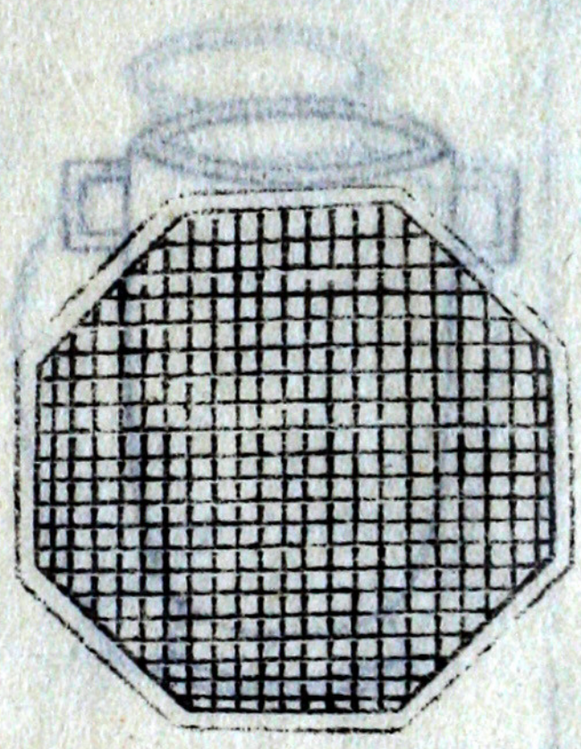
鳳
凰と畫く祭祀
は鬱鬯とし
雌と雞と
雄と虎と
黃彝鳥彝と
これ同し彝

犧尊

のさうん中ゝ半と飾とした赤漆を用ひる象尊山尊壺尊大尊著尊等同じ数なり

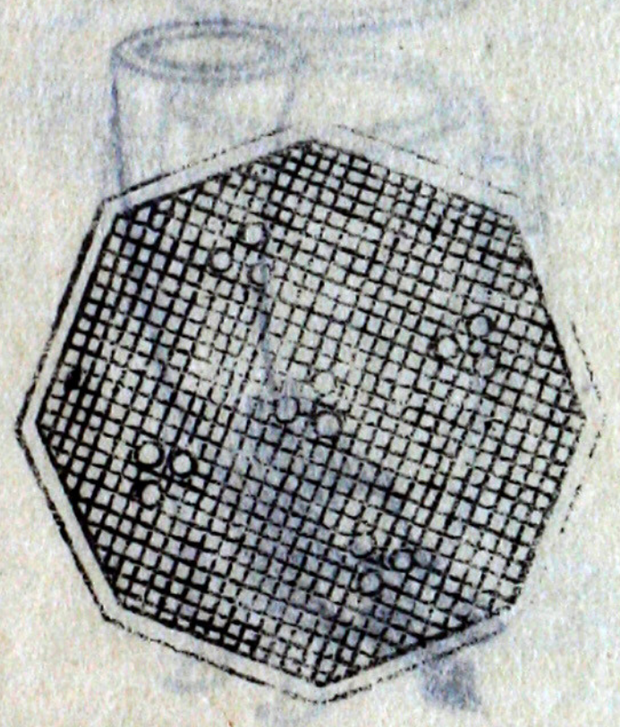
疏布巾

尊の冪ここで二尺二寸天地とまつにこれと用



畫布巾

五色の雲気と畫六彝の冪也二尺二寸の幅みて圓なり

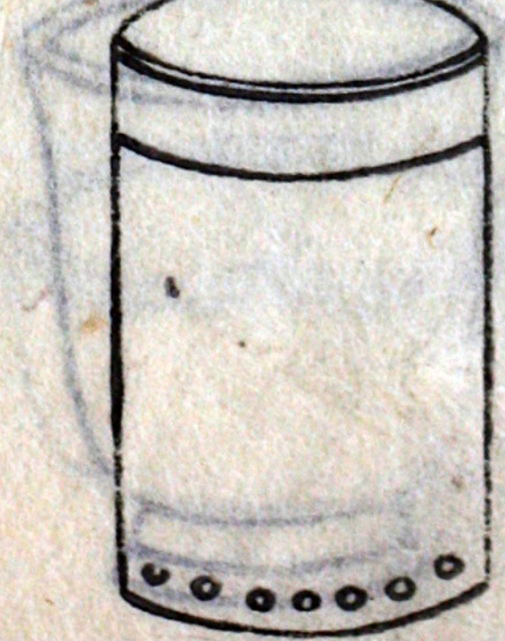


籩

竹とりつくりたる十斗と解といふ十六解と籩といふ

甄

土と以てこれとつくる厚さ五分唇一寸七穴と穿てり



柶

木と以てたる羮と和する器長一尺博三寸

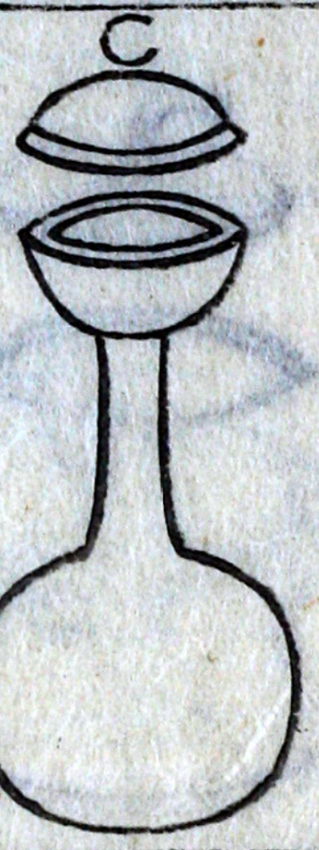
○和二云 杓子ノ類ナリ

鑄物　金

と同じ用となり
なるべくかさと金
とりつくし

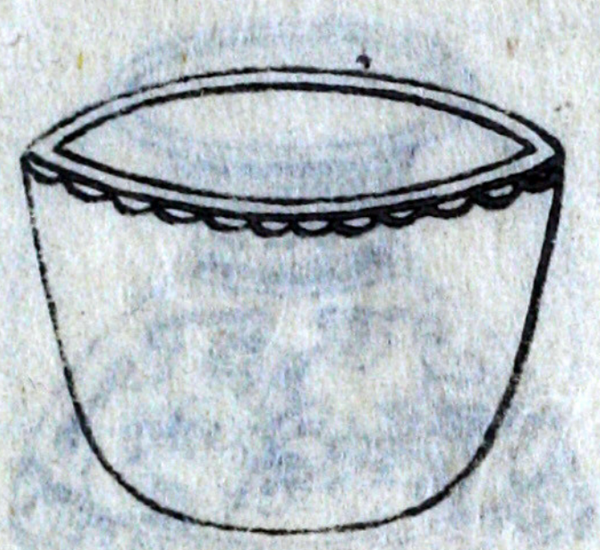
登　大

羮とすくひる
もの也一
尺八寸高さ
二尺八寸四寸



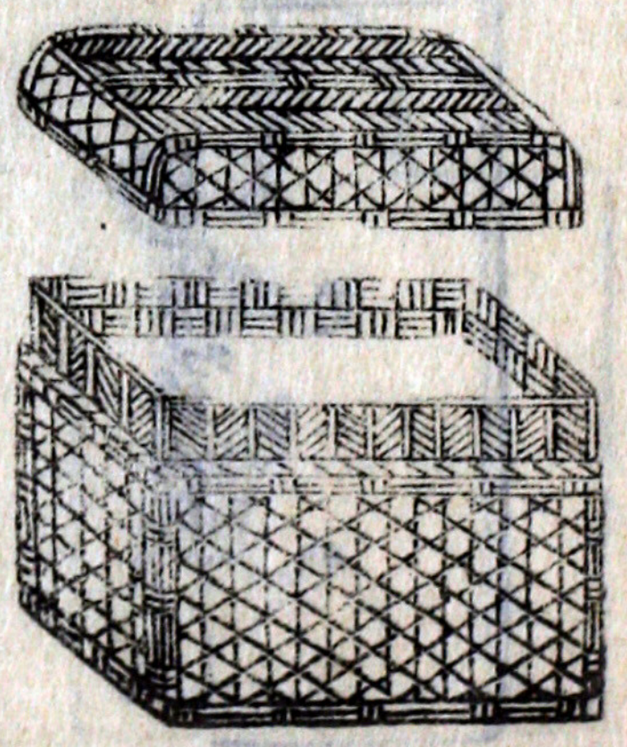
鑊　肉

と煮おとひ魚
膾とるもの器
なり



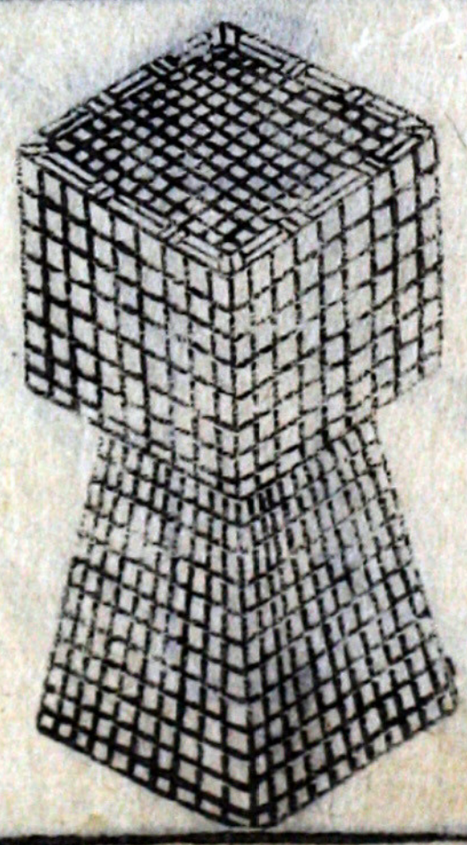
籠　竹

とりくこれを
つくる長三
尺廣一尺深
六寸足の高
二寸



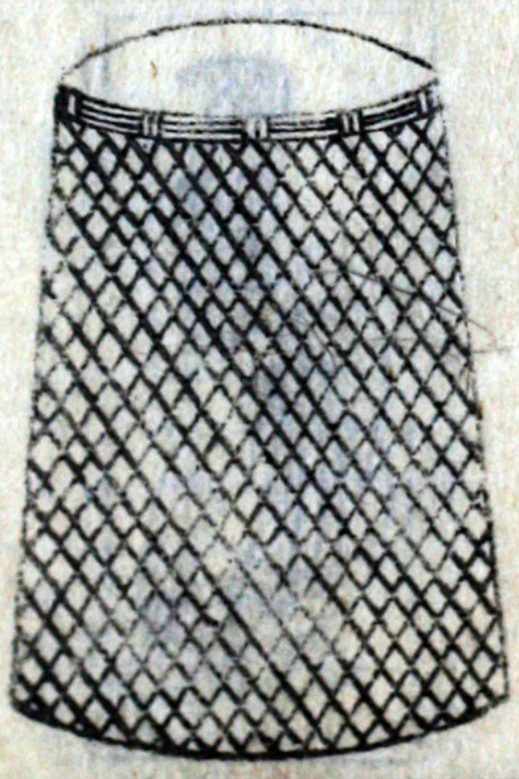
笥　竹

とりくこれを
つくる祭祀の
うつわもの也



籬

籬と同じ製
形圓かつて
長一五寸と
受くし



籩 形

豆に似て卑し

豆 と致し又

尊 と兼る器

和ようの盃

の類なり

豆 耳

豆 と刻て

と云て

てこれと

豆 高さ

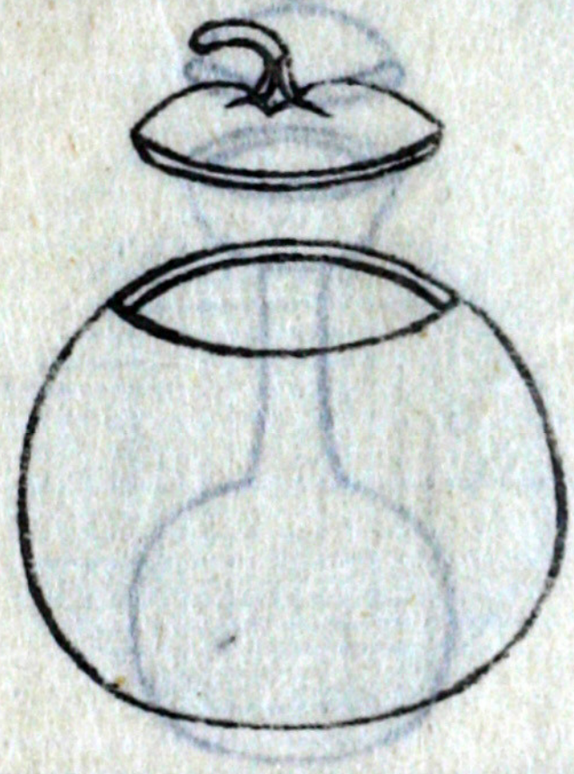
三尺口の徑一

尺五寸底の徑

二人盥とうを

て洗人水とす

つ器なり



人節 金を

以て

の圖と

圓とし

と用

管節 竹を

節 公卿

太夫采地の吏

都鄙に用

虎節 金を

以て節

虎の形と

山圓とし

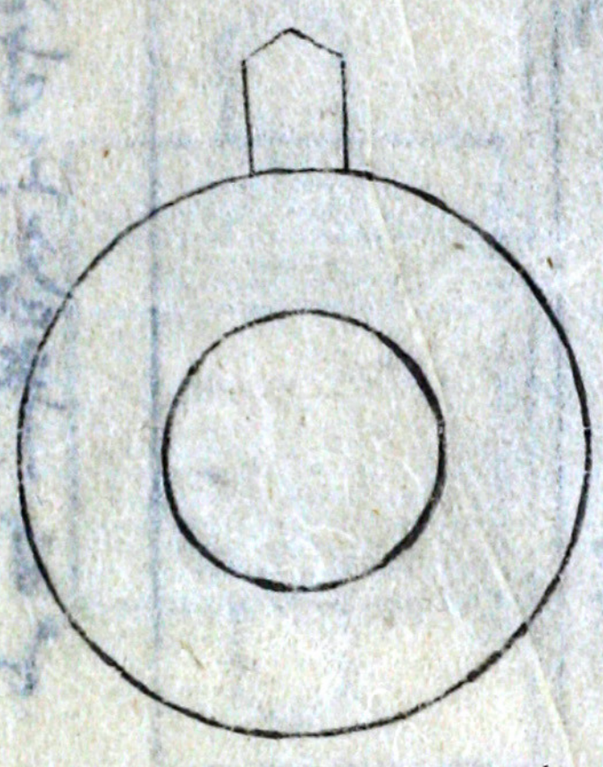
これと用

方明　木

くはたらくさま四つ人六器を上に奠るものなり

備　卣

と同じ廟の用る中尊なり



熱壁　鬱

圭璧　員

なりと璧といふ

瓶と圭といふ

天地ともに璧を瓶

位ともてうふ

璋邸射　半

圭と珪と竹

斜に刻て射と

邸射とふ

邊璋瓚

中璋

邊璋ハ七すじ

中璋ハ九すじ

山川の祭に灌

圭瓚大璋瓚

も同じ彫

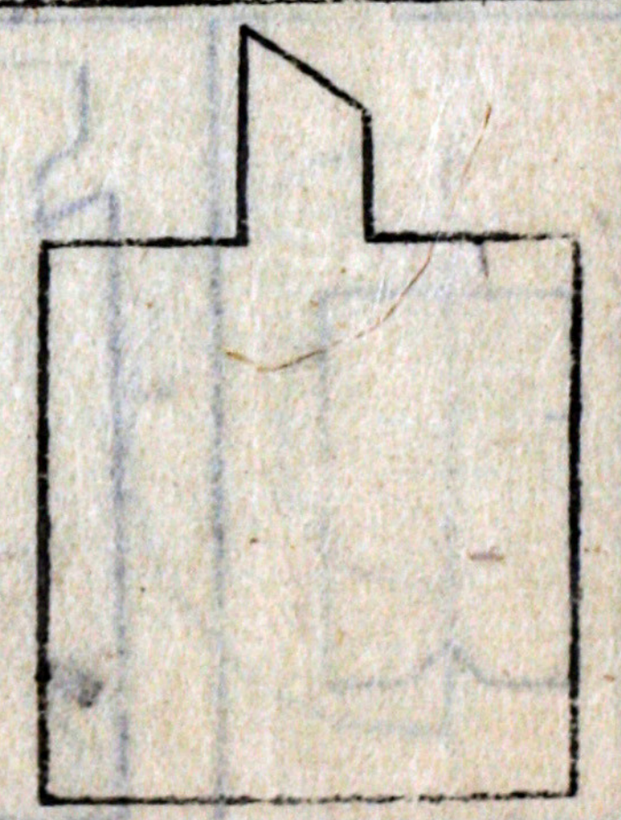
牙璋　中璋

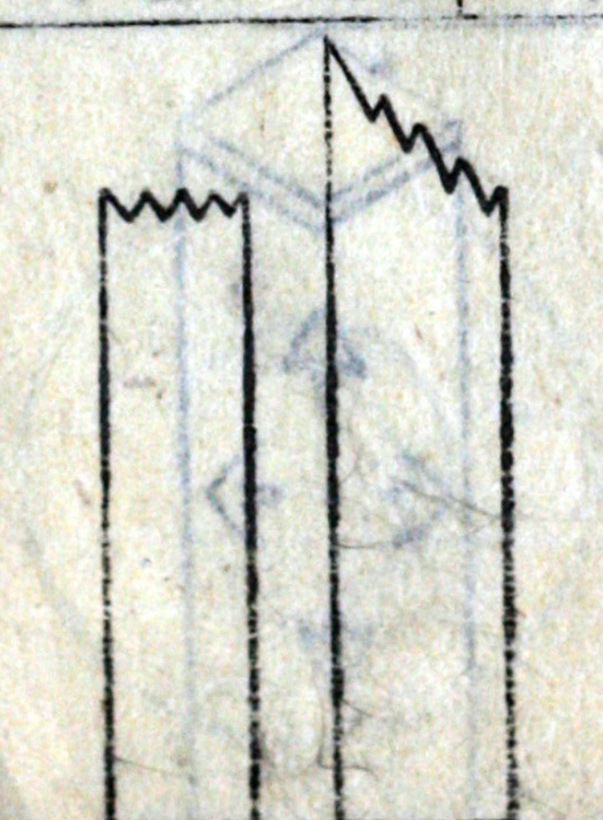
牙璋ハ軍旅

に用ひ中璋ハ

小軍旅に用る

なり



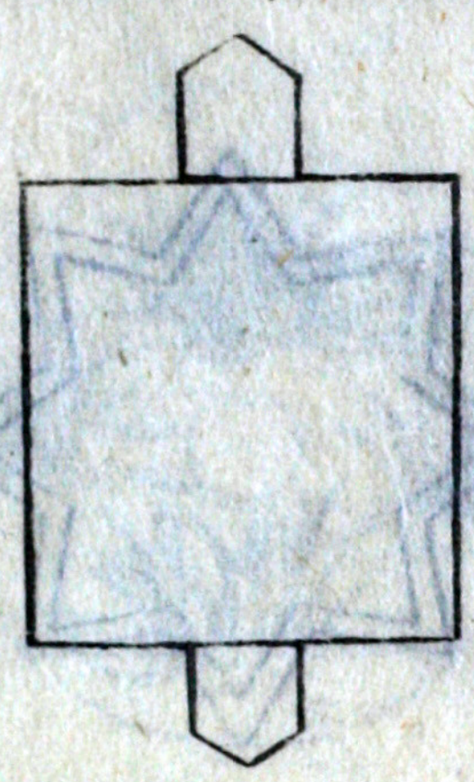


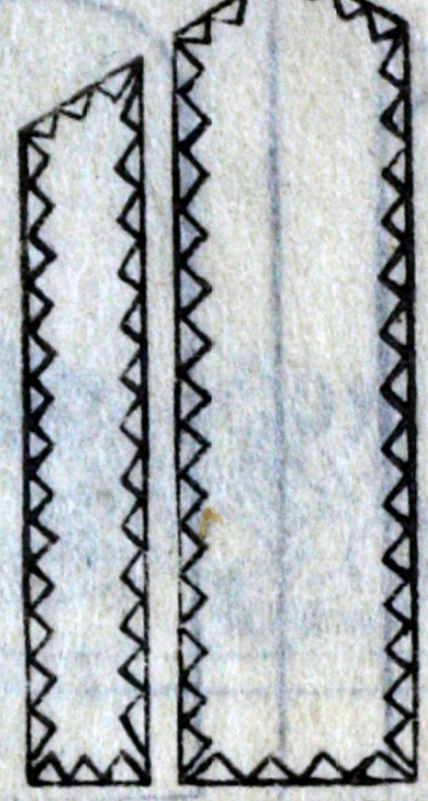
圭
長九寸上各半一寸
劍
信圭
諸侯信圭ととる長七寸
人形と琢て信と飾る
躬圭
伯ハ躬圭ととる長七寸
人形と琢て躬と飾る
鎮圭
王ハ
鎮圭ととる史
長一尺二寸四
の鎮山を以て
琢て飾る
桓圭
公ハ
桓圭ととる史
長九寸雙桓
と琢て飾る
大圭
長
三尺天子これ
を服す史
冒圭
長
四寸天子以て
諸侯を朝
む

璧羨 長三寸

琮 圭璋 長八寸 觀聘ニ天子衆侯ニ来て覲ヘる時ニ用ル

兩圭有邸 長二寸半ハて外方にうら函ニなり

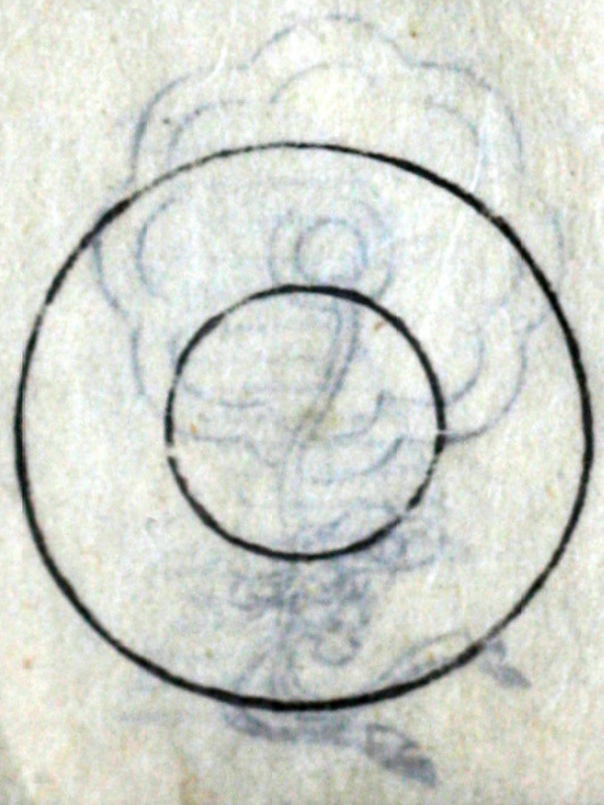


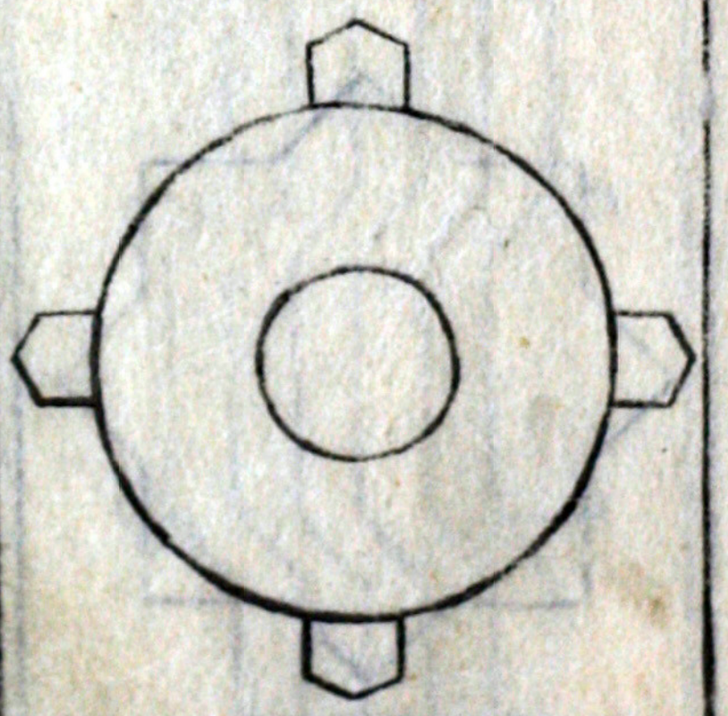


玄璜 北方乃半璧を横ニ切ル

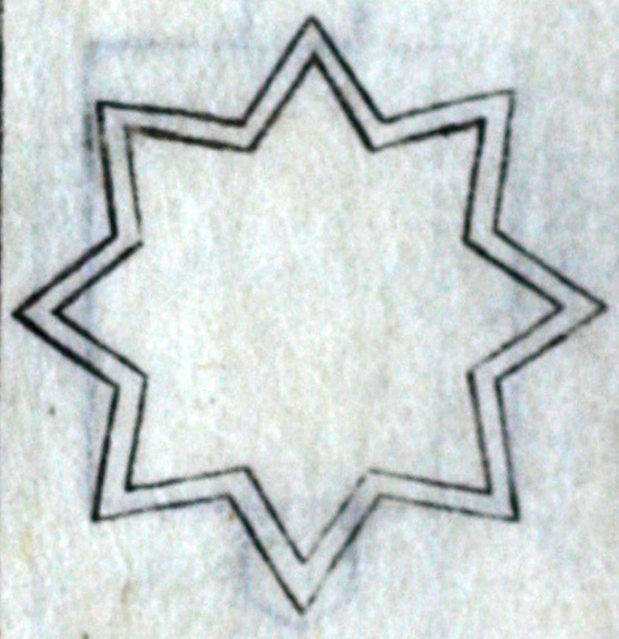
四圭有邸 玉璧ハ六寸中に居て四面各圭と邸ヒく長ハ二寸

蒼璧 天ニ禮すに用ゐ圓ニしてまろ九寸わつさ二寸

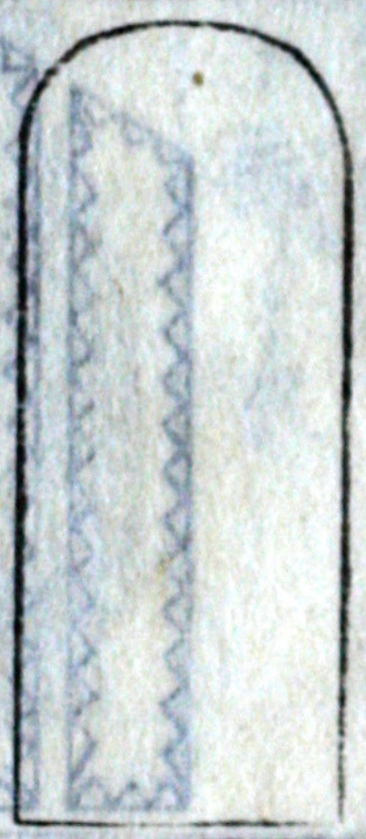




黄琮　地を礼するに用ゆ　一毋角一寸六分に刻る長八寸厚一寸



琬圭　長九寸德を治め好を徵ハ琬ハ圜くるハの義

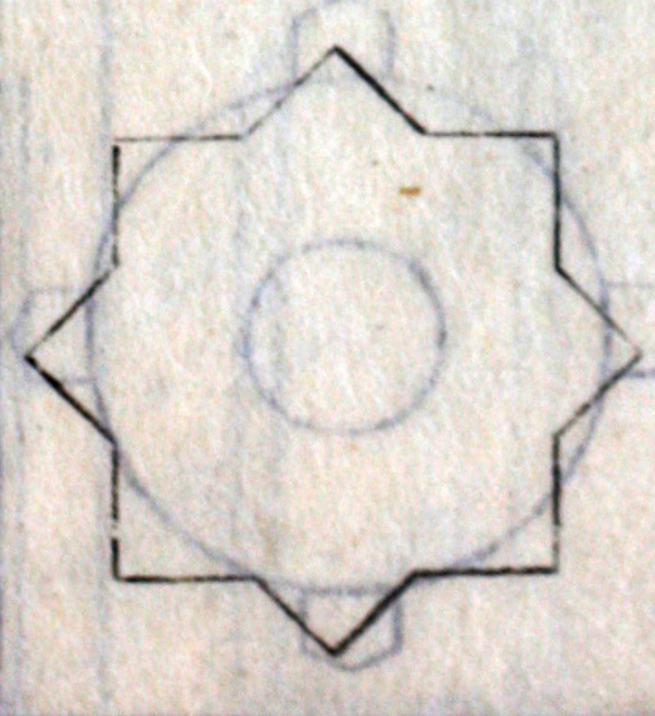


琰圭　長九寸上に鋒芒わり

大璋　長七寸諸侯女と聘すに用ゆ

組琮　組をもつて琮を繫ぐ天子七寸宗后ハ五寸以て權とす

大琮　一尺二寸内鎮とす宗后これを用ゆ



穀圭　長七寸雜と和しかと聘す信なり

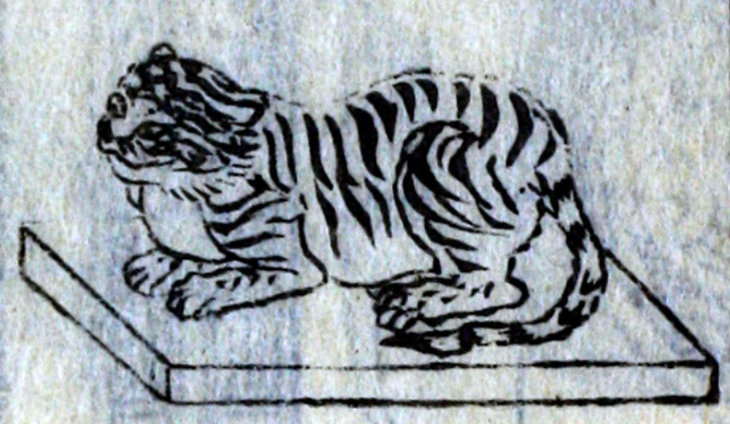
赤璋 南方

火の色にして
くゝり半圭と
なす

白虎 西方

金の色に象る
長九寸廣さ
五寸伏虎を
刻む高三寸

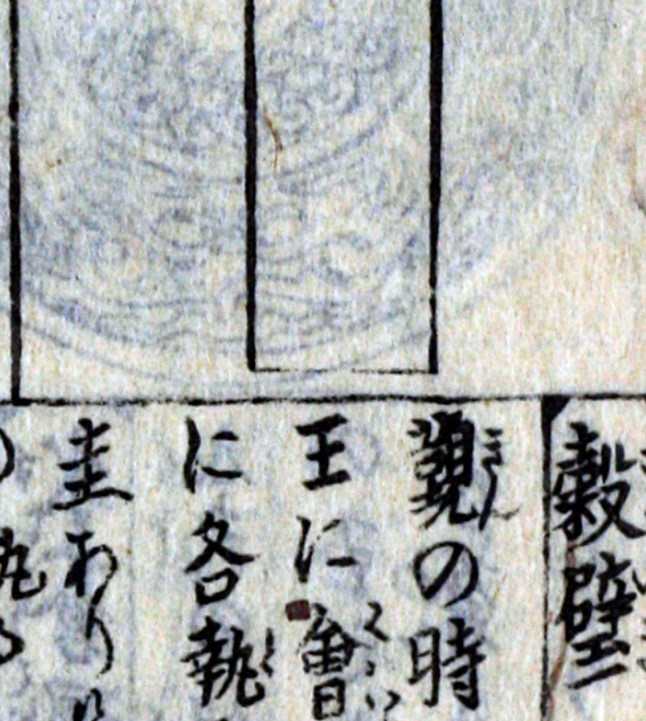
蒲璧 諸
侯の封圭これ
を執て贄と
以て瑞と玉に
合するなり



穀璧 朝
覲の時諸侯
王に會同する
に各執て瑞の
圭わりなし男ハ位
の執るし男ハ位
ナリ

繅藉 天子
の繅藉五彩
の文の繅と以
玉を薦木と
中幹とし五章衣
と以て畫かり

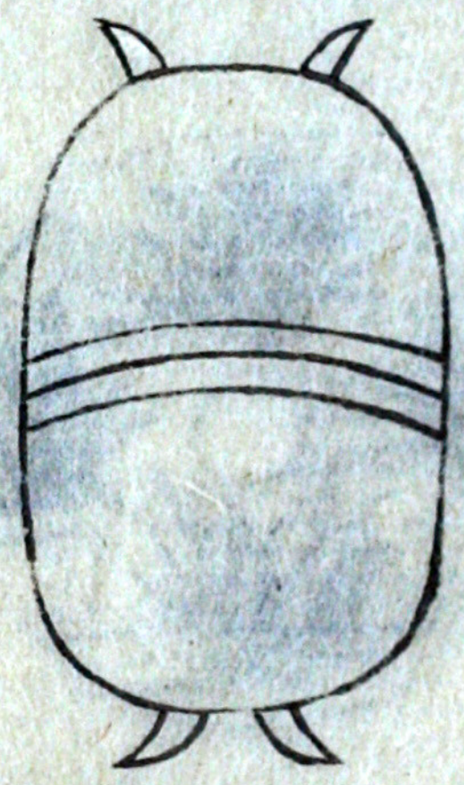
繅藉 諸侯
の繅藉三采の
文乃繅にて木
と中幹とし
五章衣と以て文
と畫なり

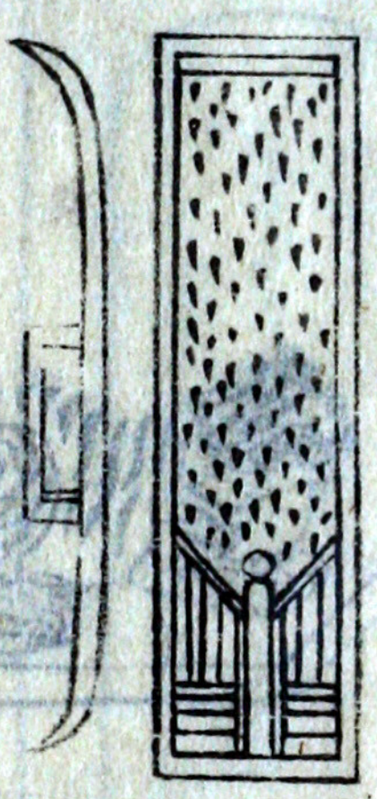


蒲穀繰藉 子男の佩ハ二采し制上と同し

璸玉璵 むの赤色と瑞と璵ハ祓乃皇なり

拱璧 極一人蒼文と綰璧中に雲氣とつくるなり





璹玉蟠螭

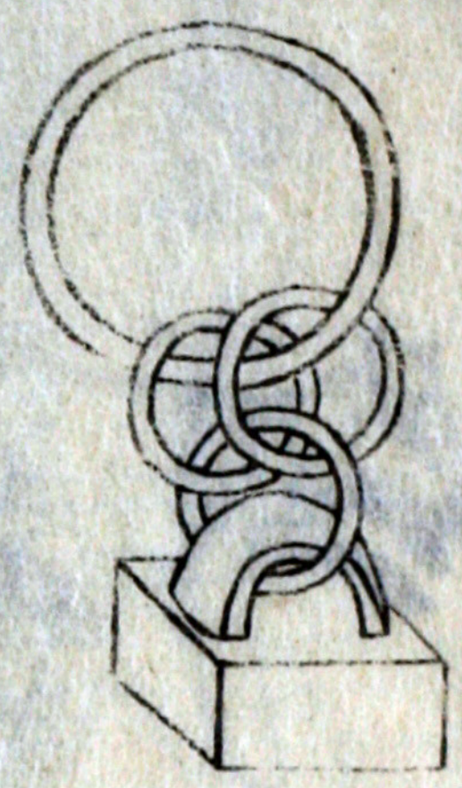
水蒼珮 これ太夫の佩る一歌のむし山表く彩蒼さんこの文なり

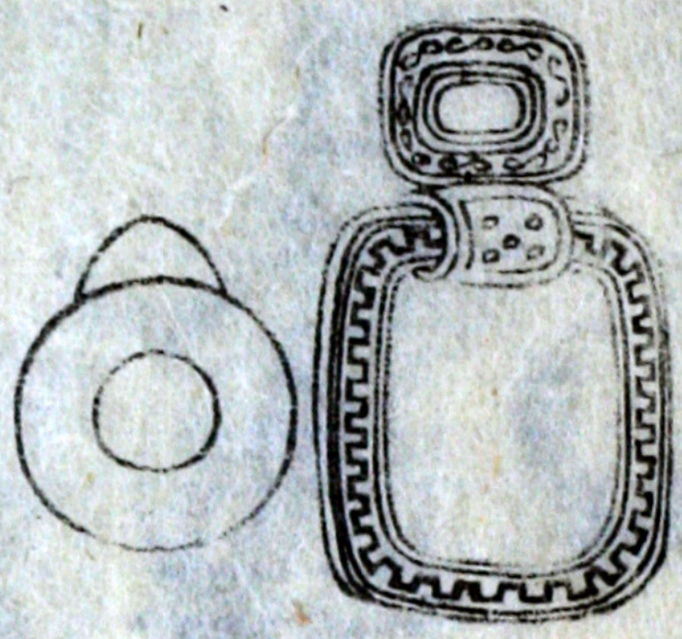
連環印鈕　此印鈕ハ壽亨侯乃印及ひ關南の司馬皆此の鈕なり蓋し鈕ハ印のおしてなり

鹿盧　佩乃環なり

玉環玦　あの闕ふ是ハ音の物決なり

玉辟邪　畫鎮なり此器ハ大康の墓中より出る一歌の物なりと辟邪ハ乃獸なり





琥　博さ二寸六分長八寸三分天地四方にくくり天子ハ神と祀り諸侯ハ天子と享れ

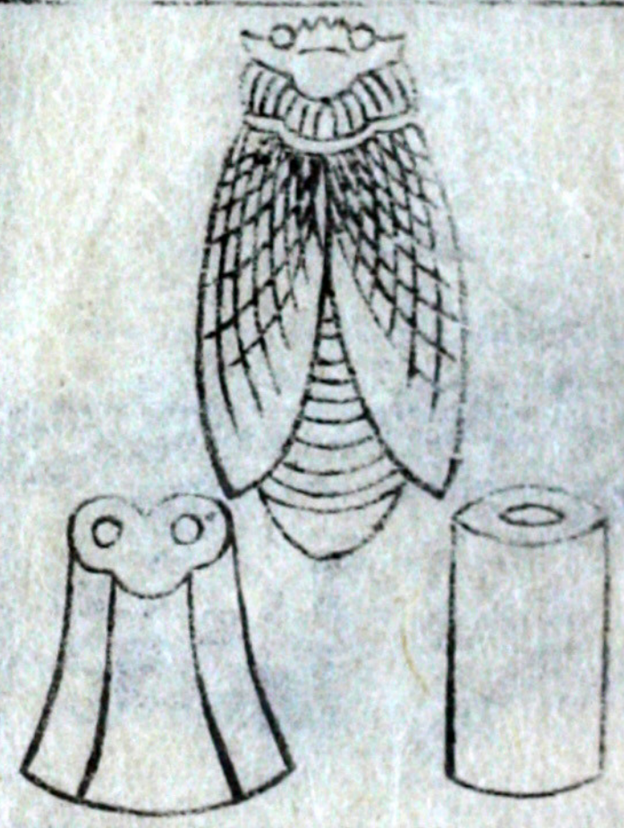
璋琥　あの三代前の物なり高辛墓中の物なり璋大小圖の如し

瓌玉重孔環　環の圓徑三寸五分厚さ五分色赤内白く徹り五重孔の孔とつくるなり

蒼玉玲　上
綠玉充耳　右
黃玉瑀　左

瑞玉馬黃玉人
馬首高四寸八分身高四寸一分長五寸四分玉色微青月紀勢拘しコレ玉ニテ作る人馬し

玄玉驄　唐の駿式し玄玉ハ驄と称て式し九あ果の間に寘ら



環　環の屬し丸の如ときとわらるゝと環と云ふ意し

佩刀柄　礼記に左ハ刀礪と佩こしわり色かゝなのつゝなり

漢雙螭鈎

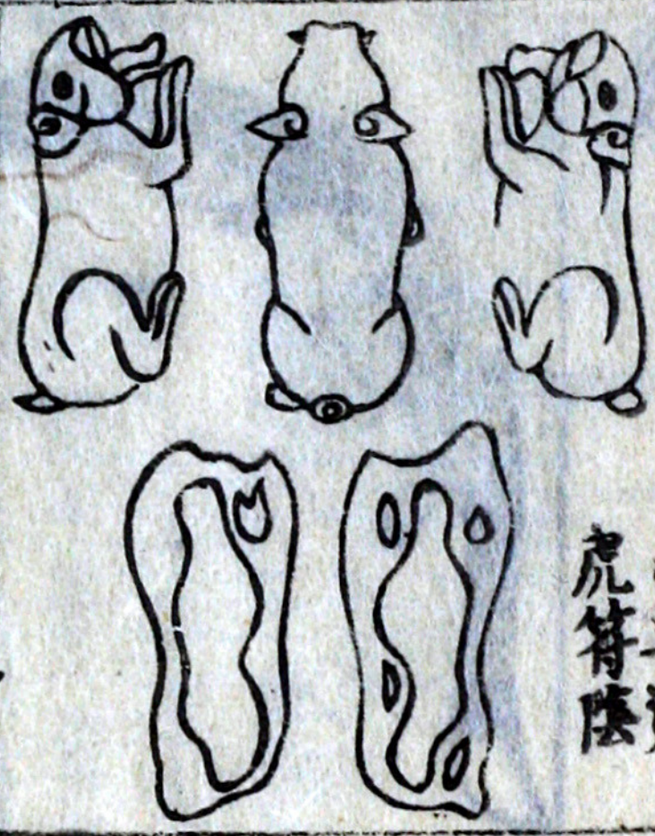
長六寸二分濶さ九分玉色二倉白黒古斕斑として毋の螭廻顧狀こうれいいまに佩て殺ようくこものし

銅虎符制

虎符高さ五寸五分長二寸四分高八分濶八分刻て二ツに二片相合し漢の時これを用

海馬葡萄鑑

葡萄氏金を波こく水紋と竹ふ陽日月のうつる則て鸞鸞の工偏をおこれり



虎符陰

博山香爐

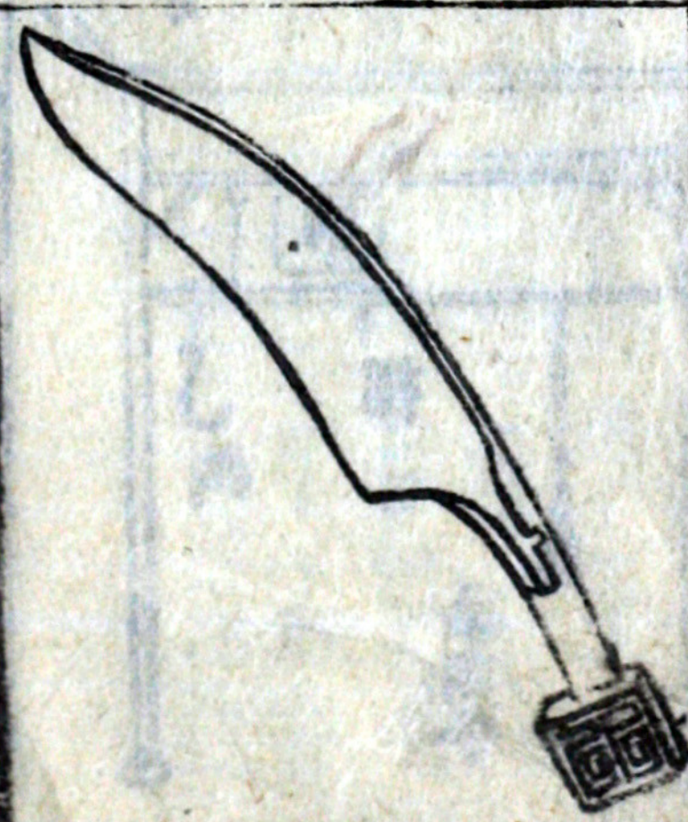
銘八字

天與子孫富貴昌宜

漢朝故事諸王出閤則賜晉山香爐晉東宮舊事曰太子服用則有博山香爐一云爐象海中博山下有盤貯湯使潤氣蒸香以象海之回還此器世多有之形制大小不

漢刀筆

形刀ヒの如一柄の間に鑾と金結て佩う器し古人簡牒を用ることなしこつうきさごて書と潤しなら



杖頭

此制費長房の壺公に從ひ遊ぶの時其歸に及て杖を投うんで龍と化しさるに法あり

漢龍提梁

高さ二寸三分長六寸三分闊八分重八兩七錢

衣服の飾漢代天子の物なり

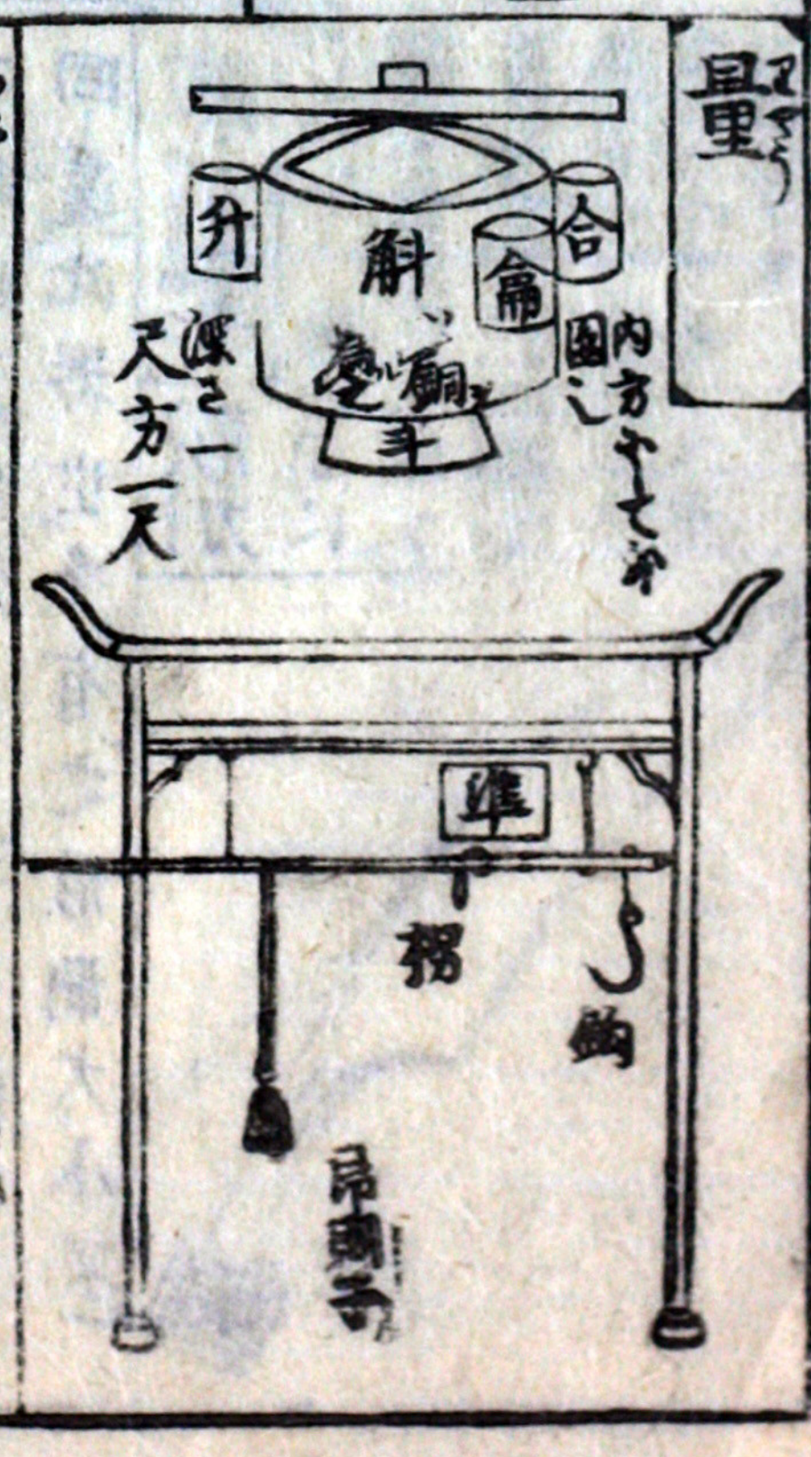
削

長一尺人皇さ三兩博一まろ

刀圭

方寸匕とは十分の一にして九散とすなわち藥ごとの度なり

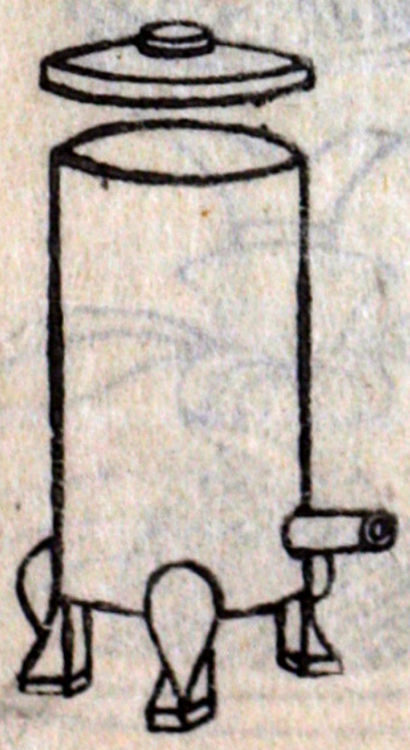
量



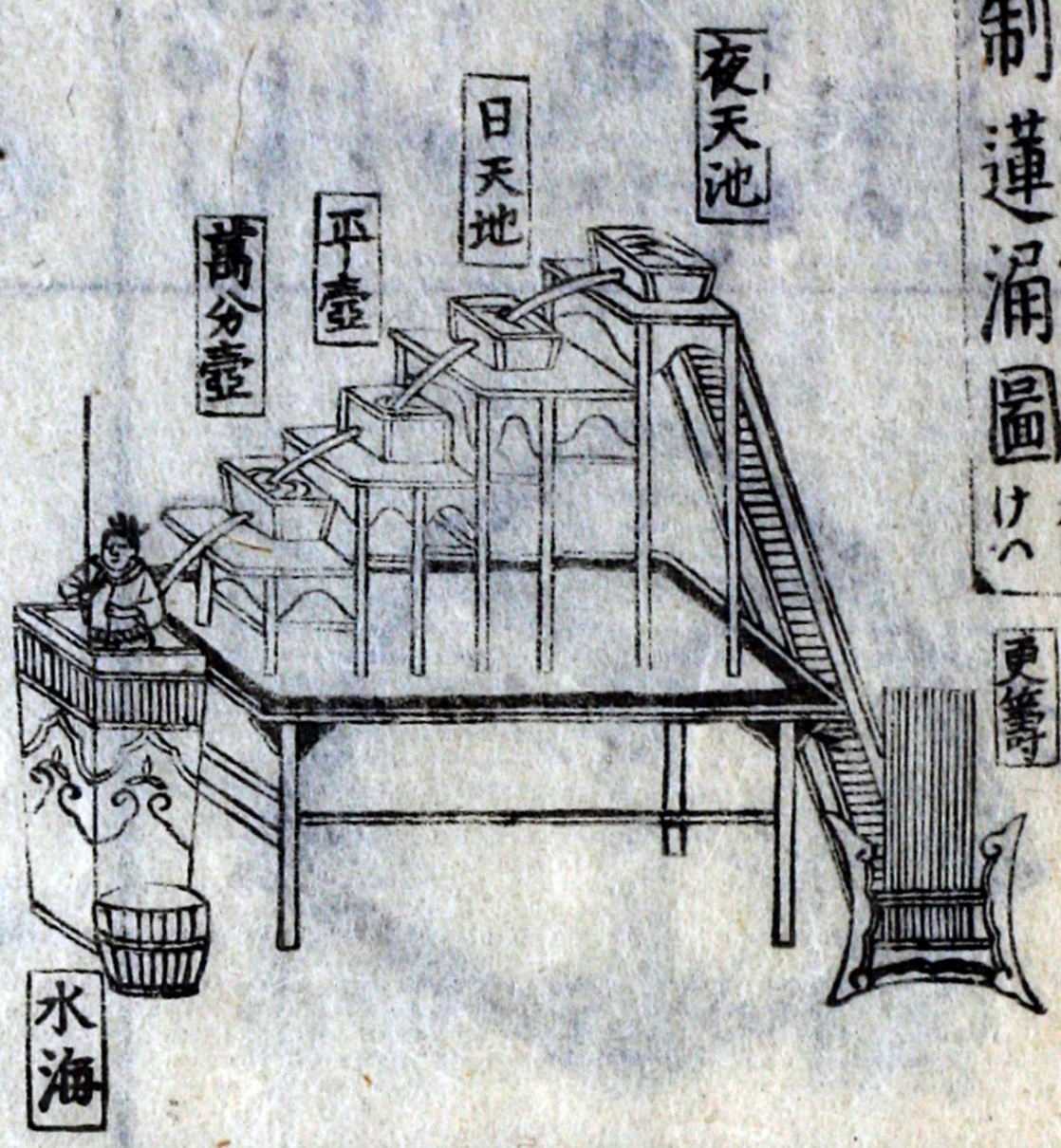
量は黄港の龠をもつてその粟黍と千二百と容れて龠の中に實しむ井水とをもつて龠の中に實しむ十龠と合し十合と升と斗と十斗を斛とす衡も亦一龠の重十二銖二十四銖と積て一兩と作る

丞相府漏壺

高さ九寸半深七寸半徑五寸八分五升と容る銘漢



古制運漏圖



今制運漏圖

漏刻ハ黄帝こゝにて制ひて晝夜とこれを用ひ
こゝに冬至八晝四十刻夏至八晝六十刻春秋四十刻
晝夜各五十刻漢哀帝の時改て百二十刻とし梁武帝の大同十年又
改て百八十刻とし唐の時こゝにて晝夜百刻として古制に運ふる法
圖のごとし宋朝もこれを用ひ唐のごとし法晝夜を百刻とし
十二時にこれを毎時八刻二十分毎刻六十分水をこゝに二斗八百五十
四十八二の分一氣に當り一歳にて二百十六万分悉く皆上に刻ひ和
鳥水と別て下ゞて運心を注くこれを落て皆上の器

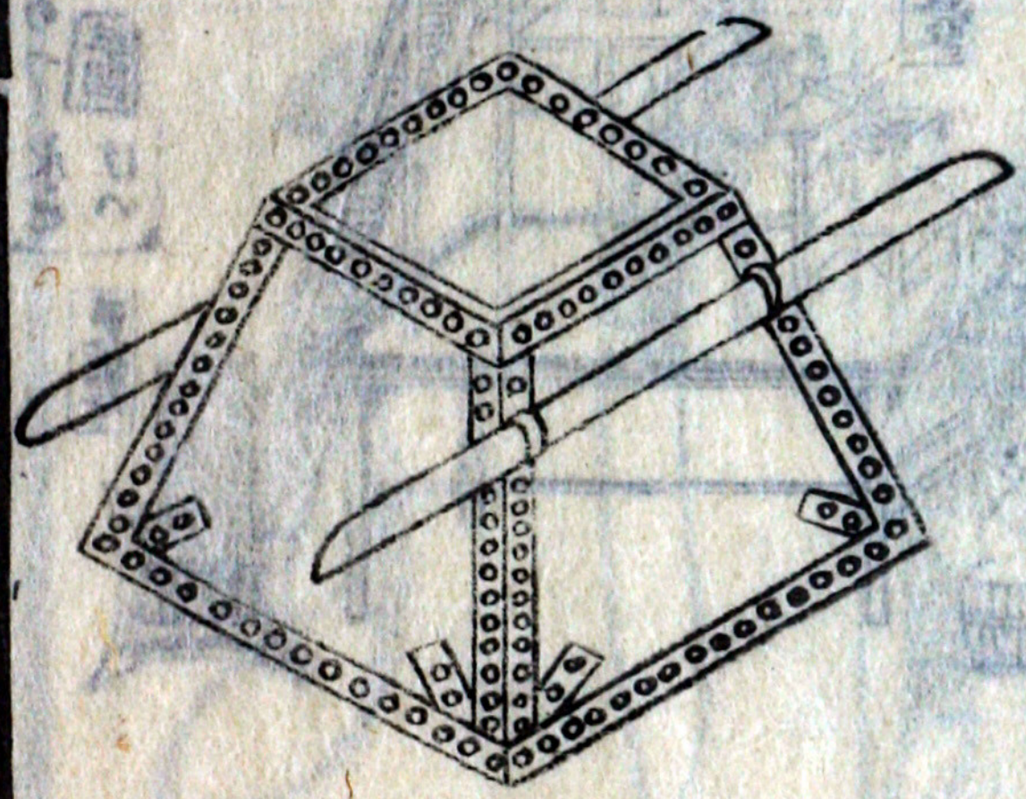
古斛

八十合量なり斗八十升量し斛角ゝく多づのかれば斗えたりこれ升てし

きたのゝちに古今あるべきもこれハ同

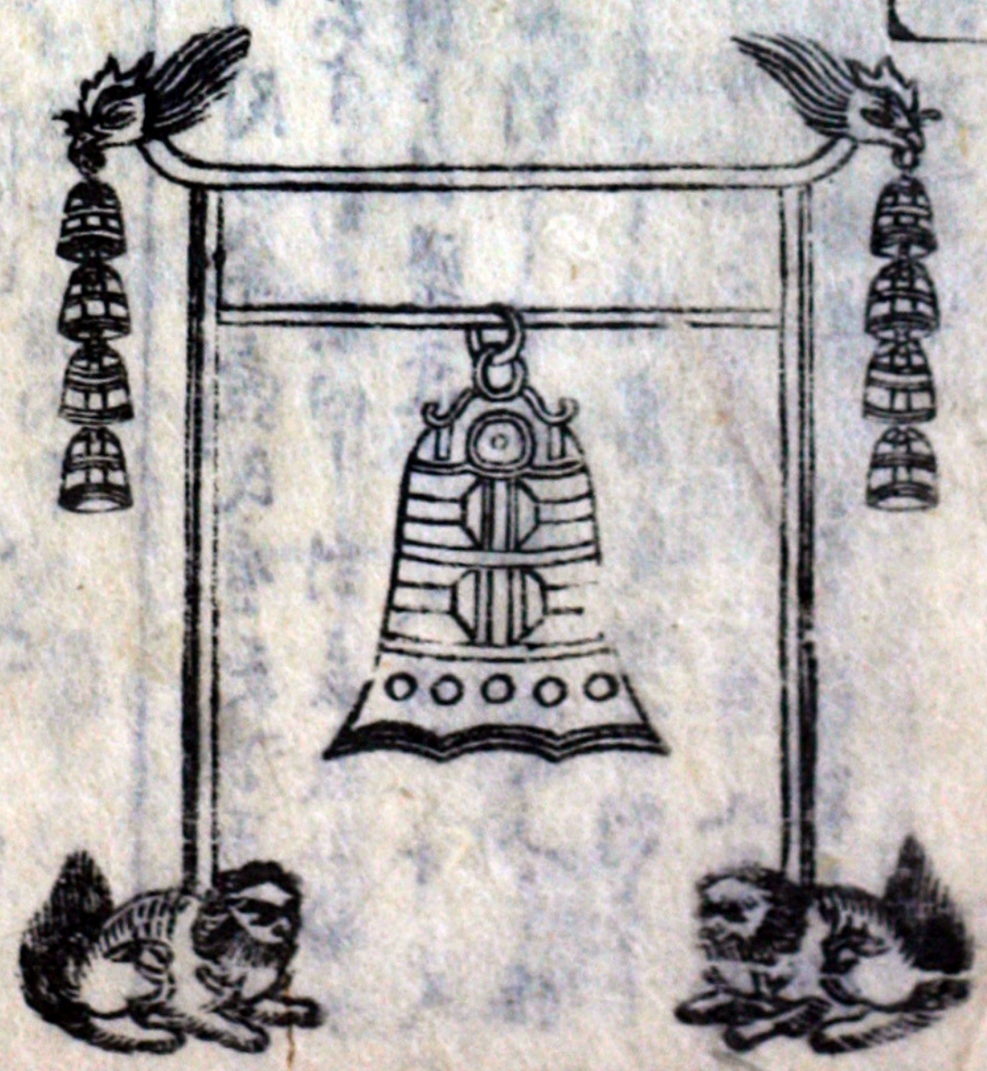
今斛

升斗斛桝しるべの屋うてこと

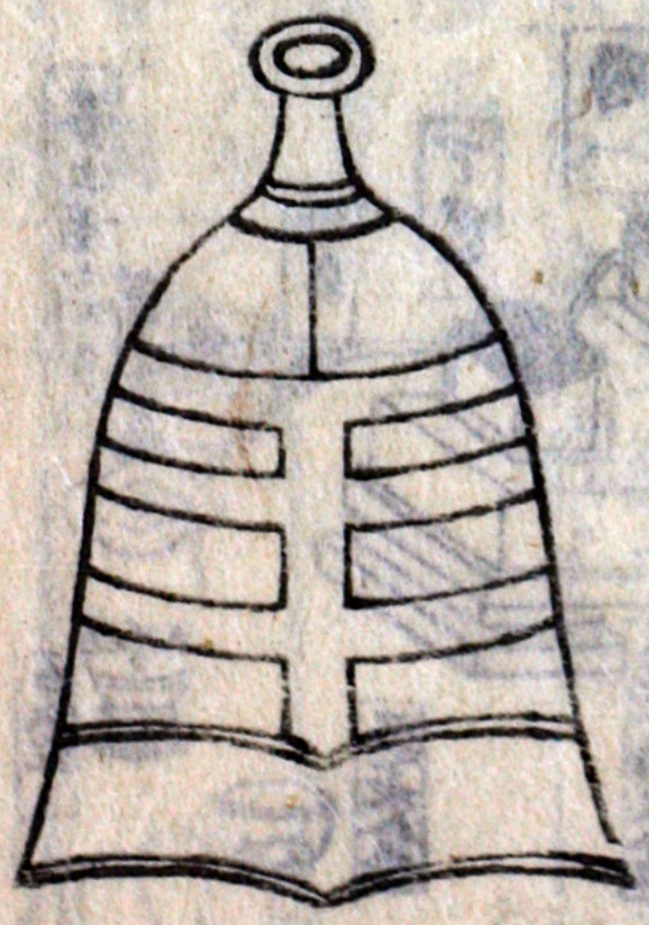


樂器

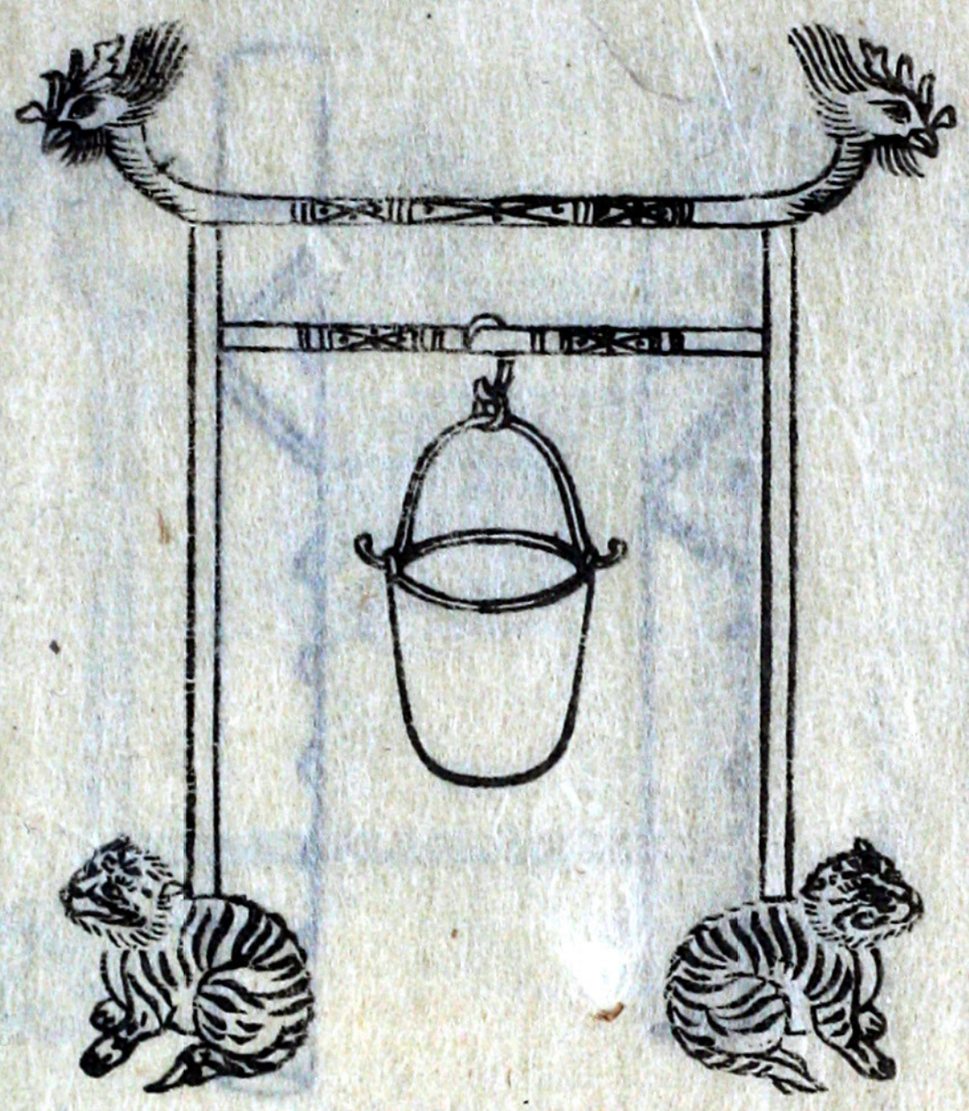
鏞 虞夏の時の大鐘



鎛鐘 八音の金の屬

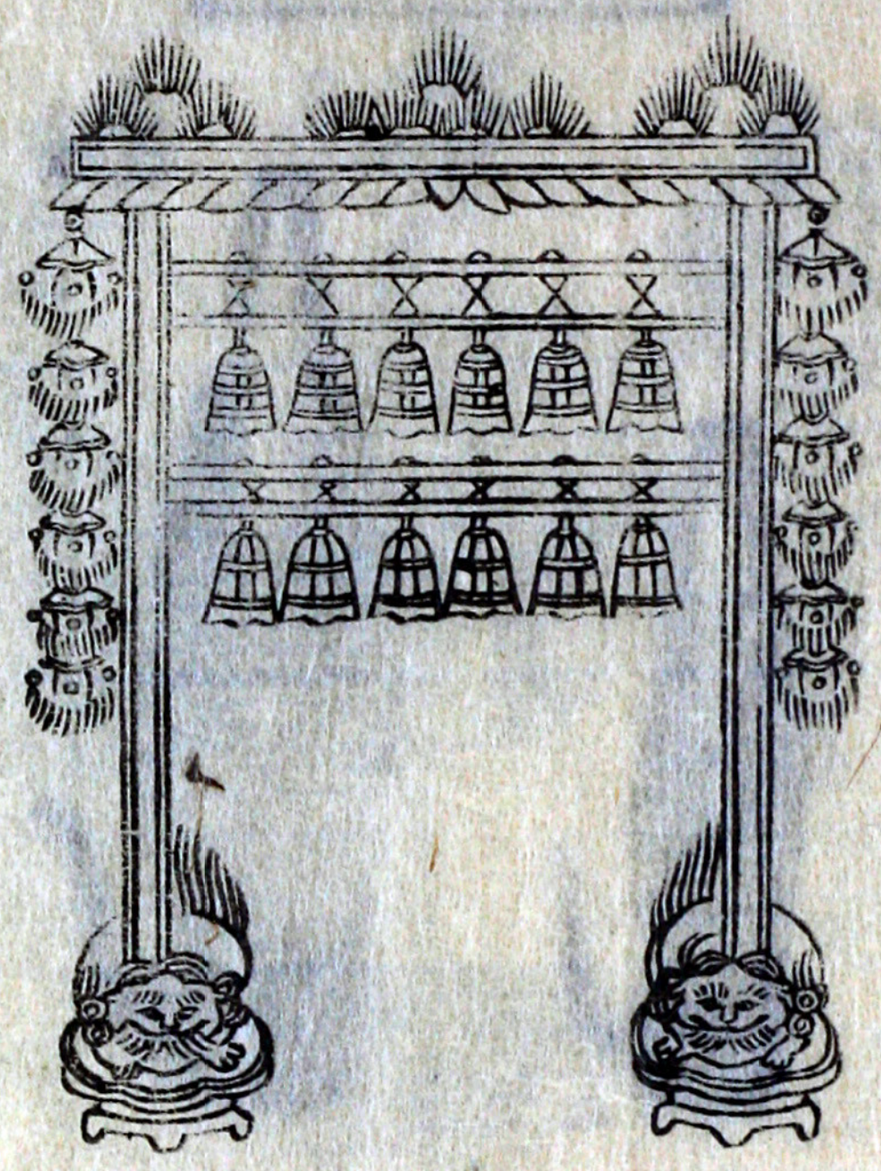


金鐸



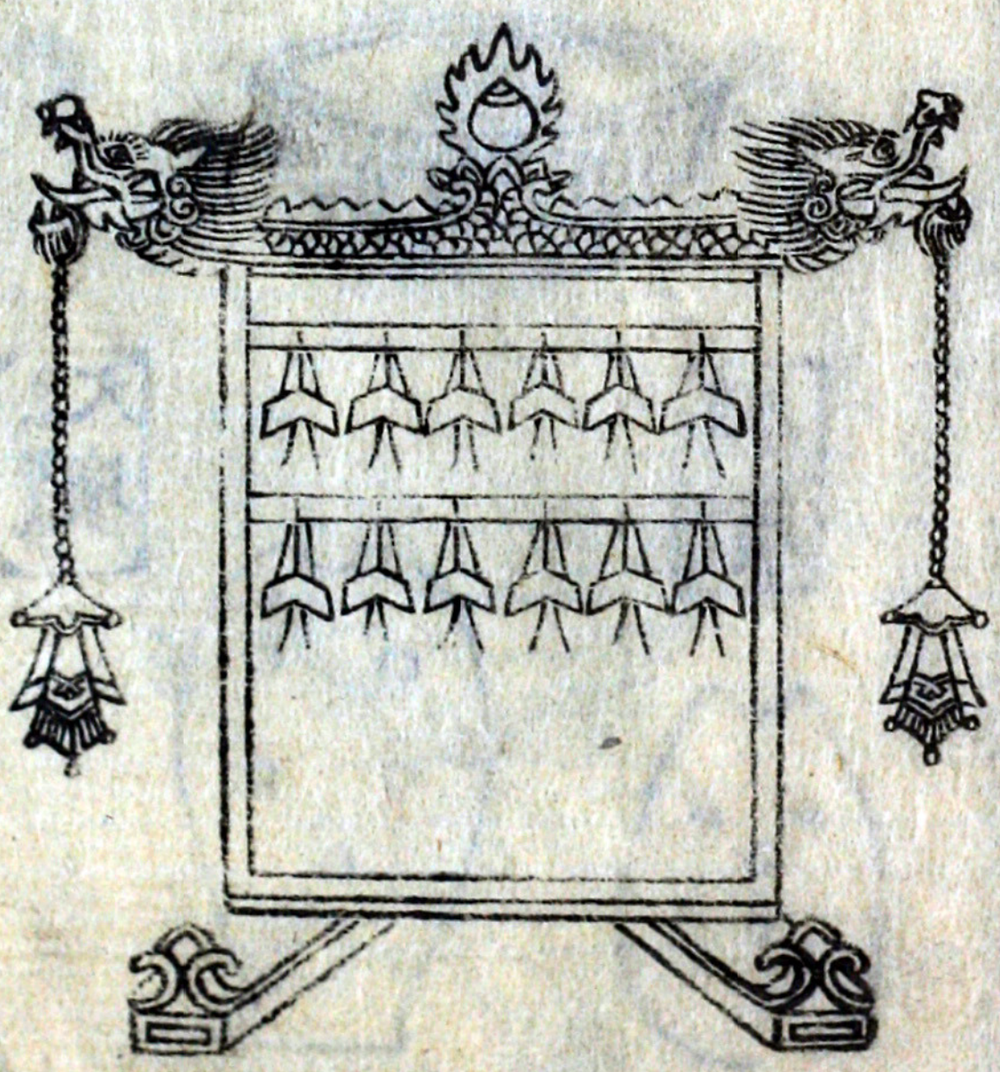
千鐸圖

編鐘

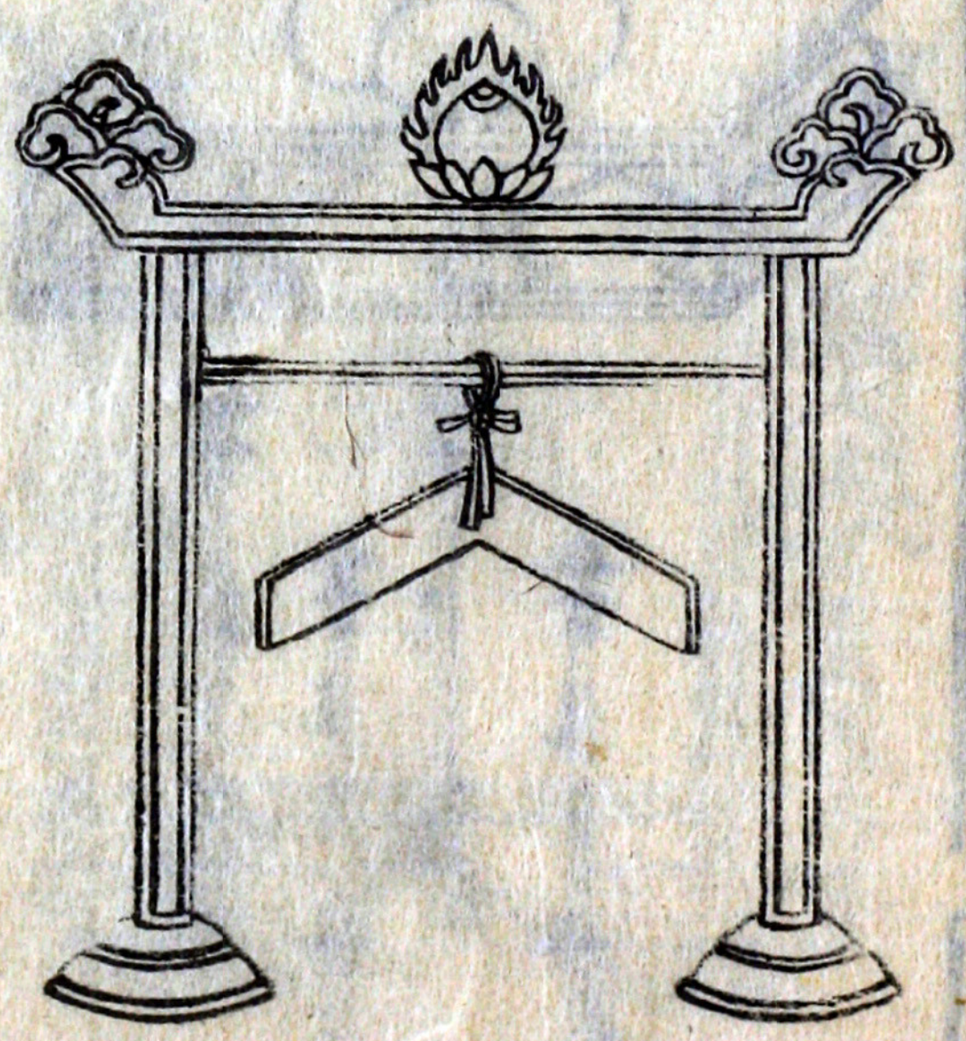


歌鐘

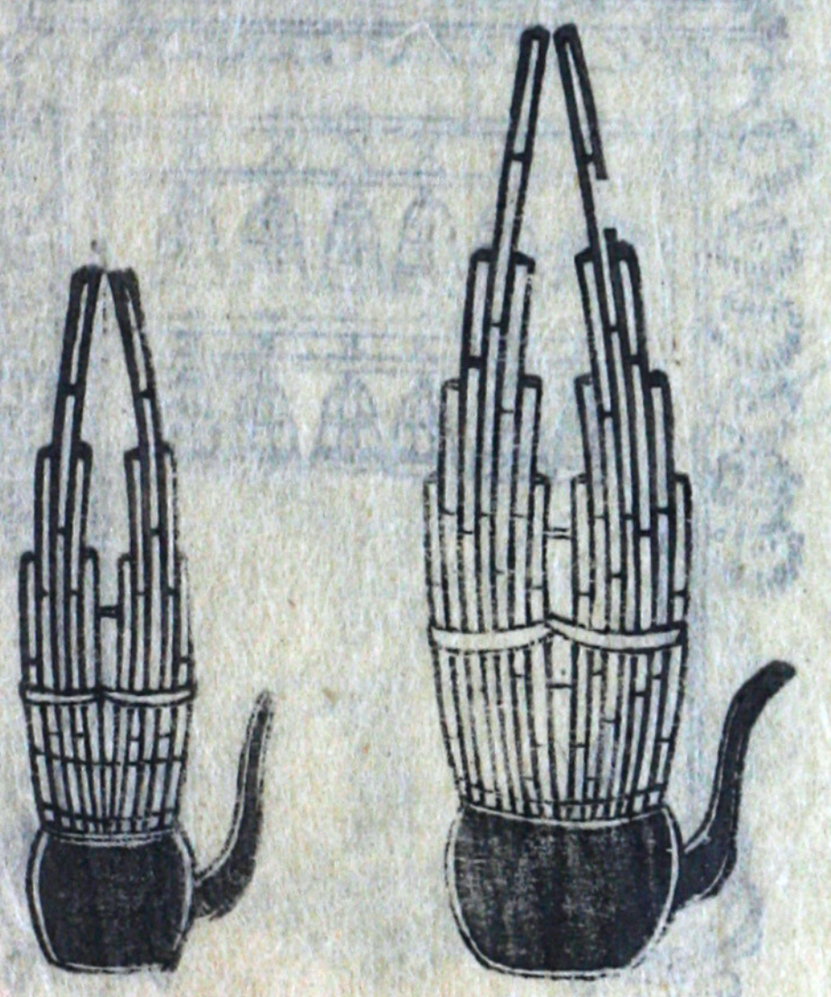
編磬



天球

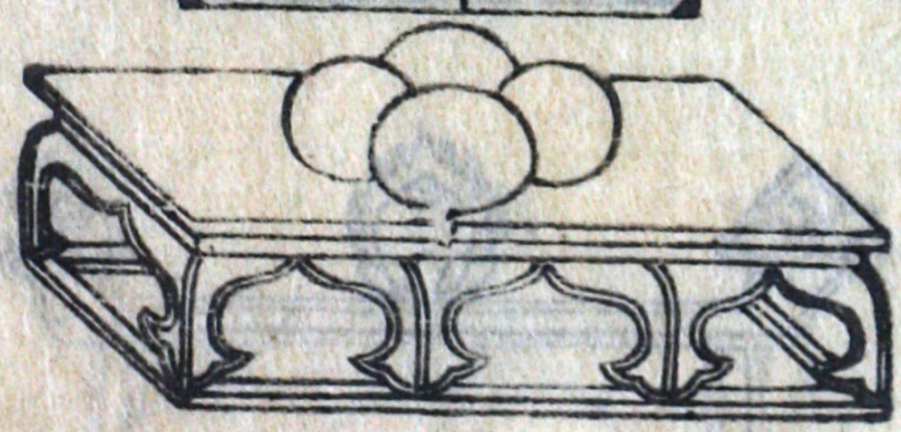


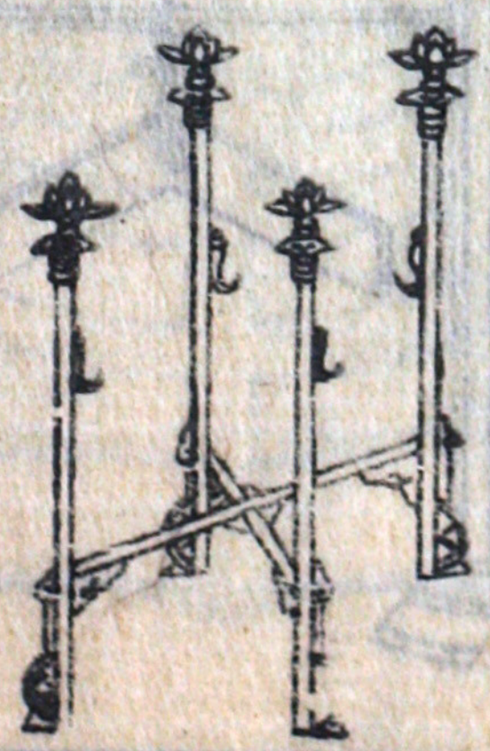
大小竿



大小篪

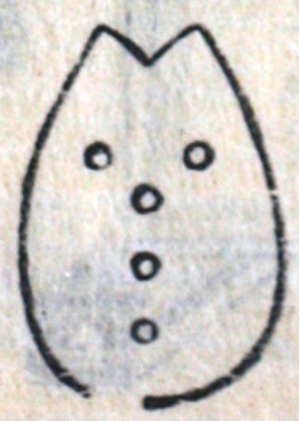
拊鼓



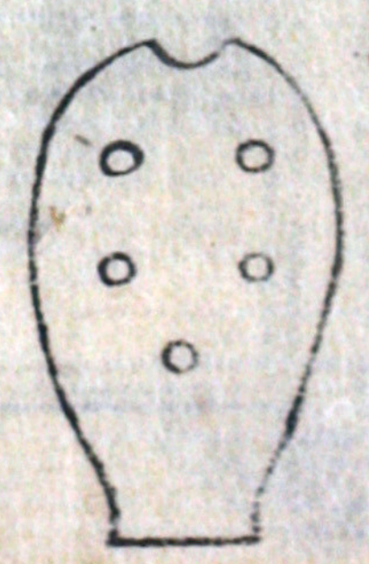


古盃

小壎

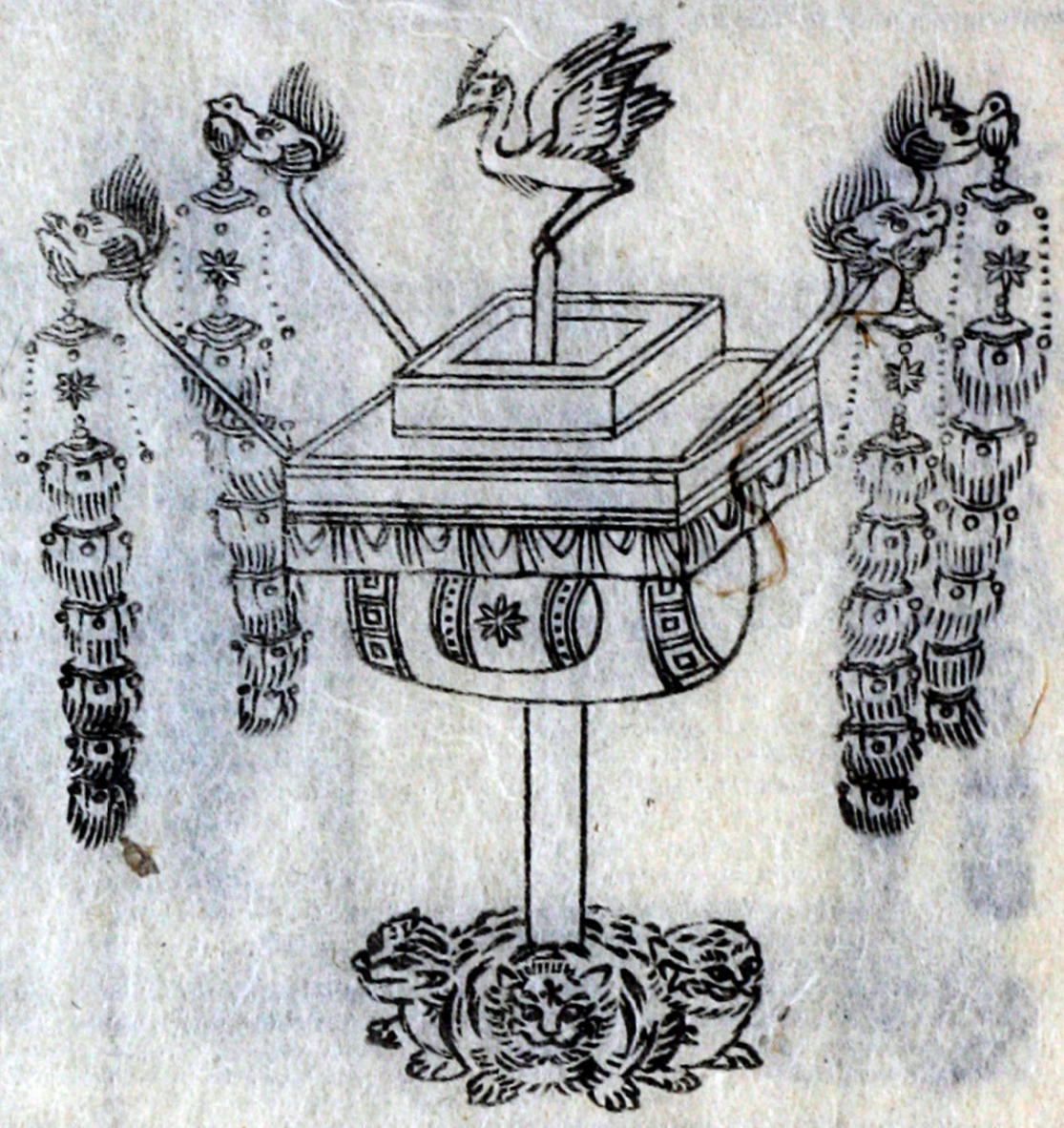


大壎

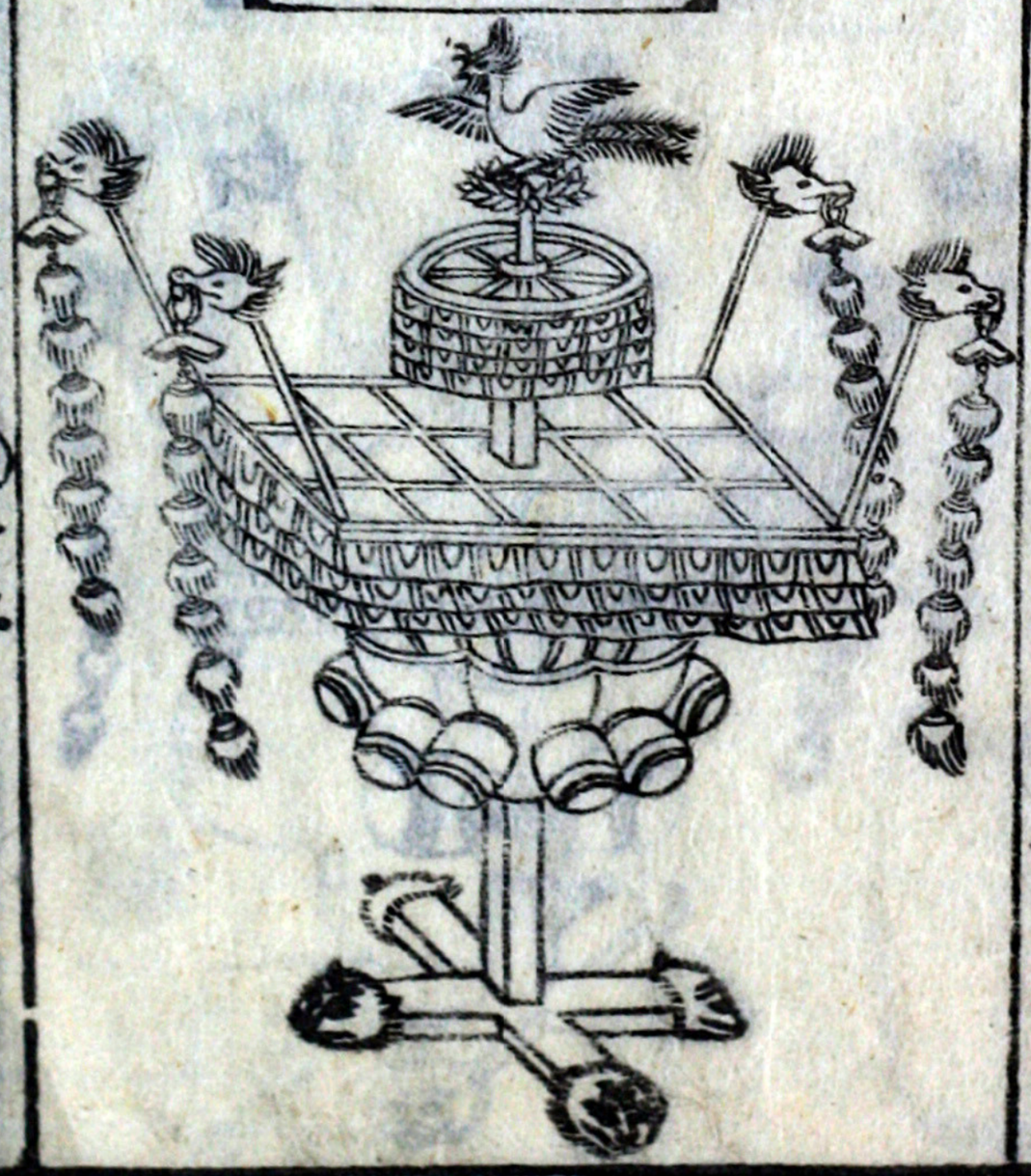


雷鼓

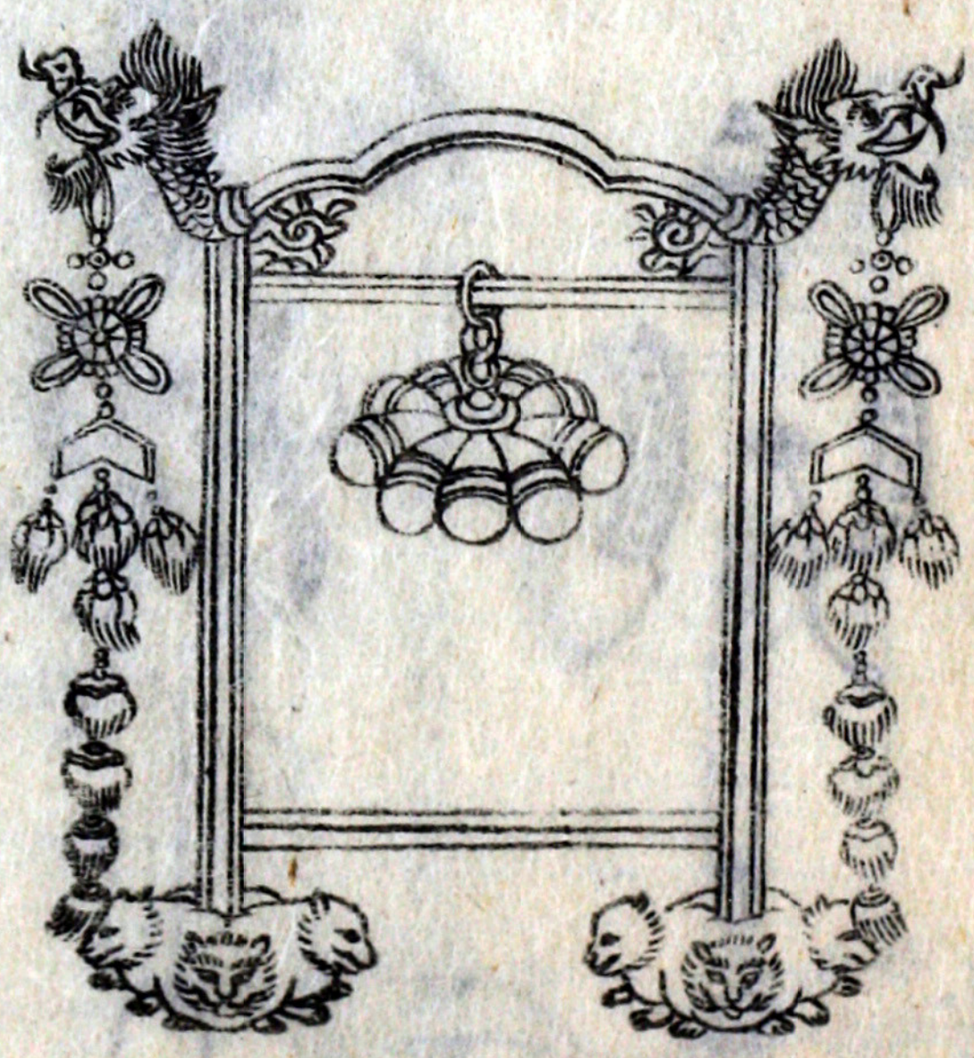
建鼓



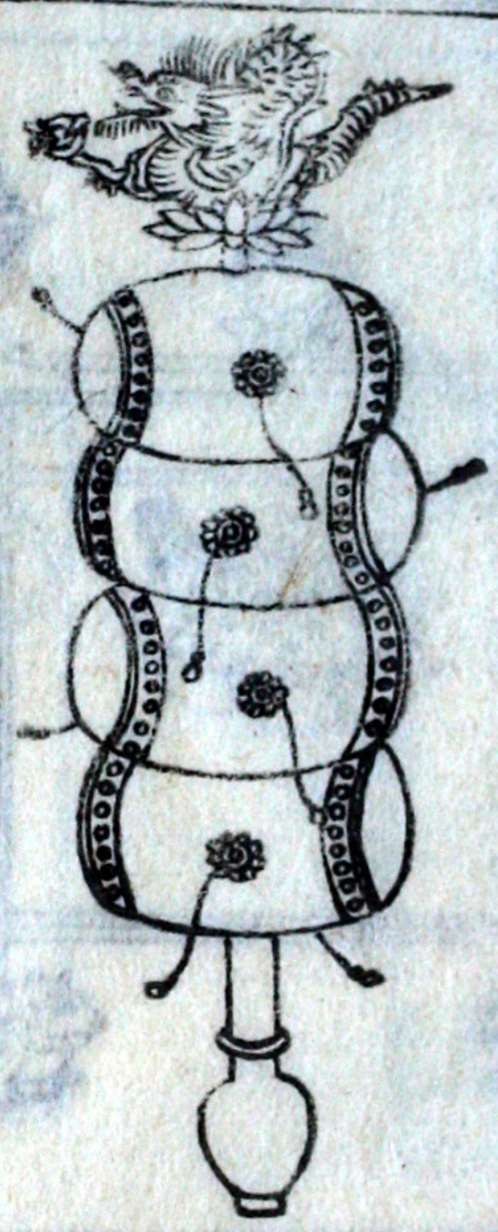
靈鼓



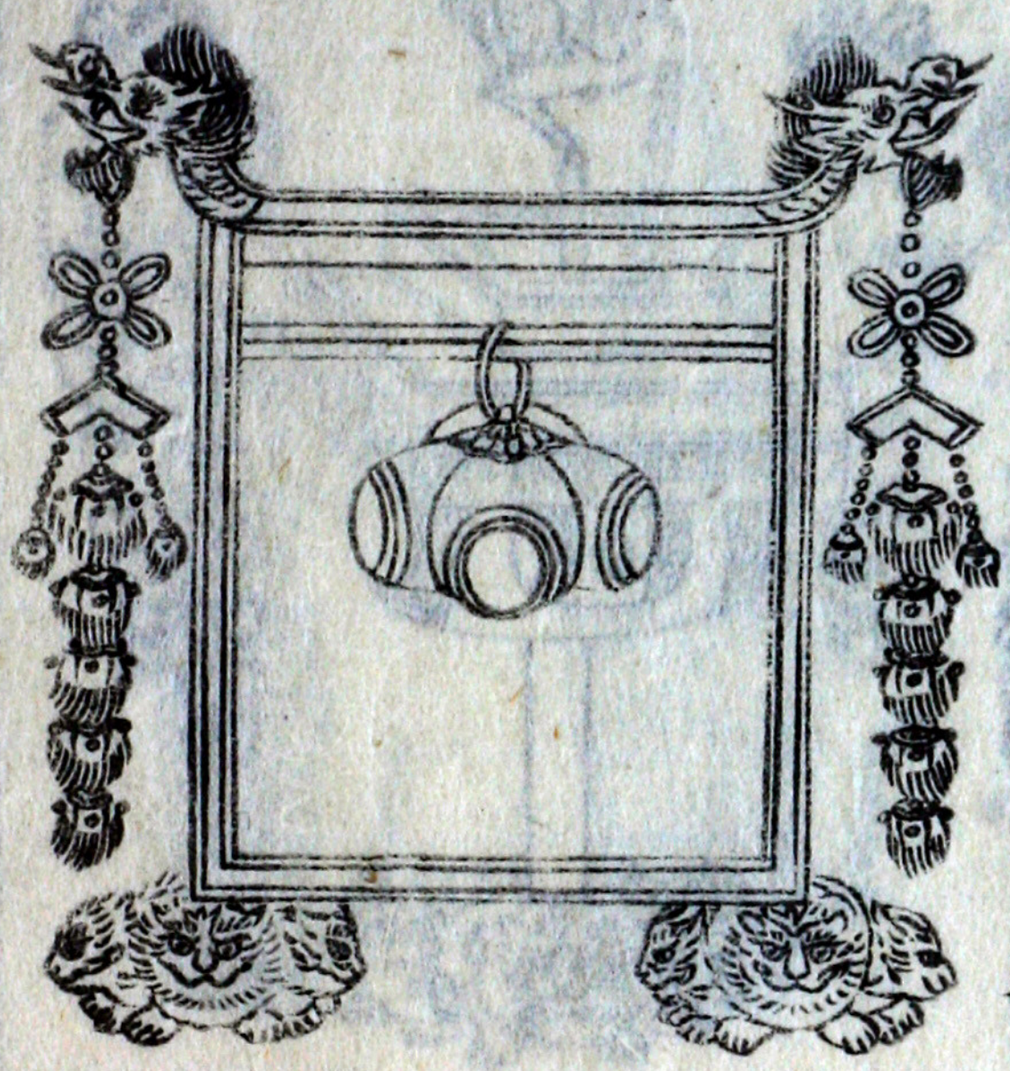
靈鼓



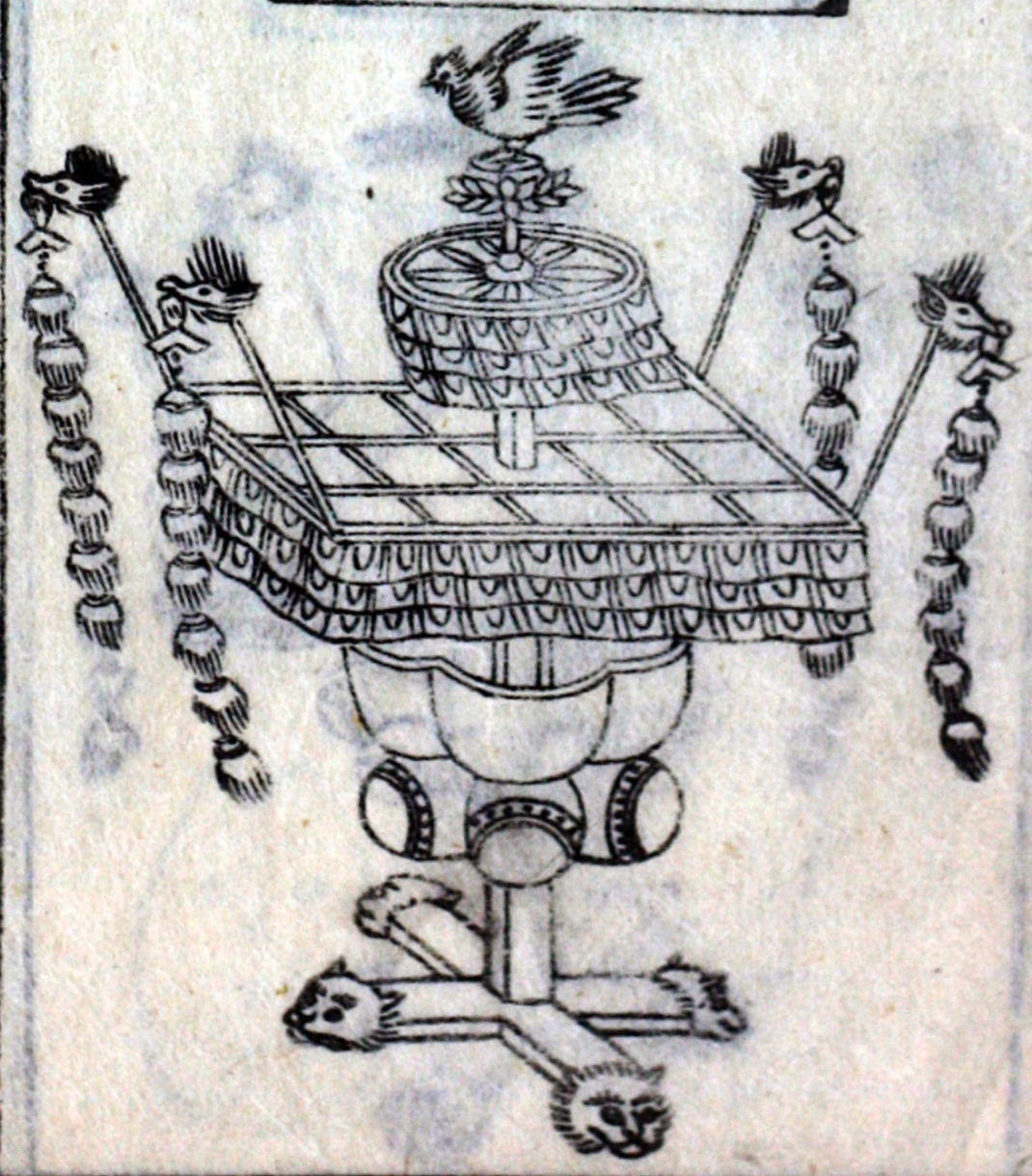
鈴と鼓



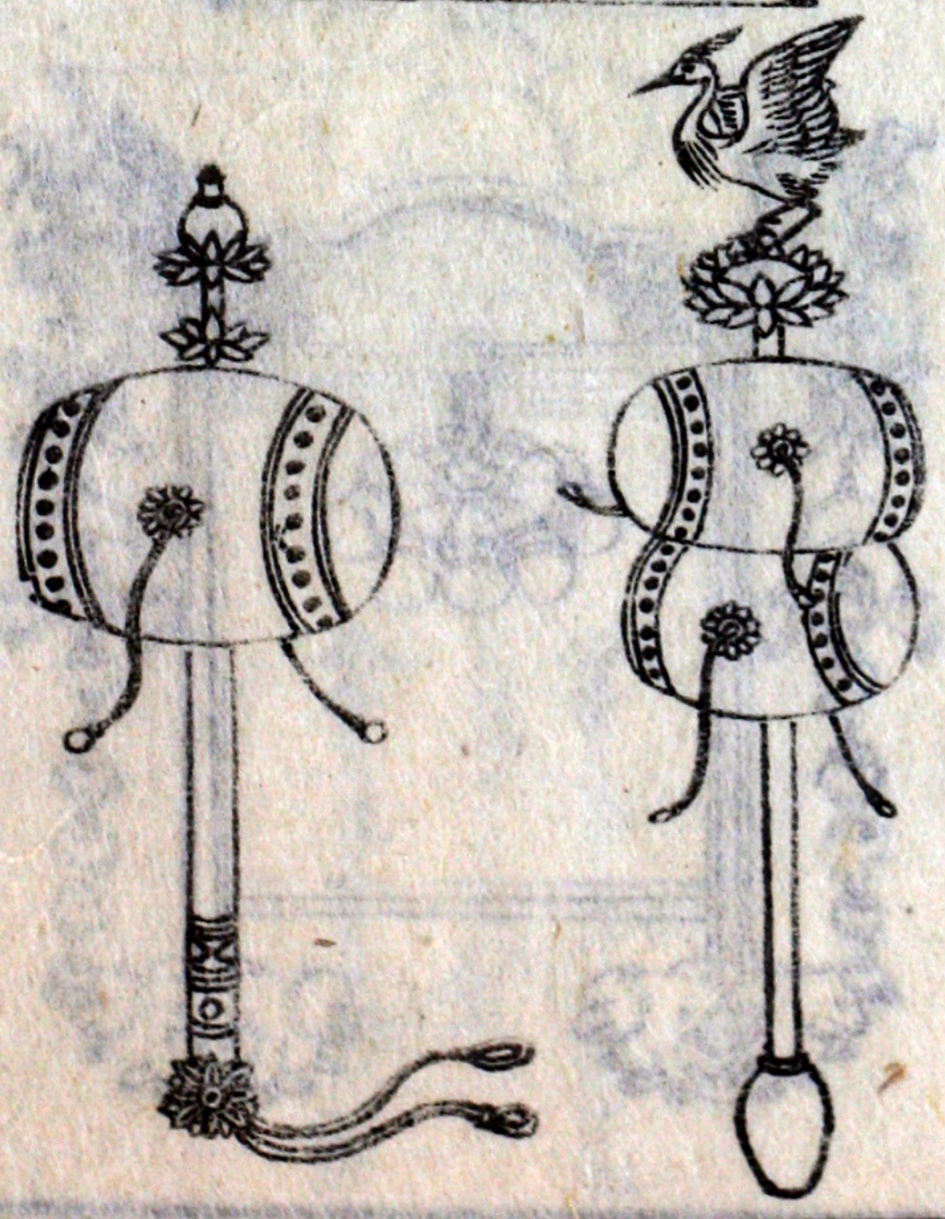
路と鼓

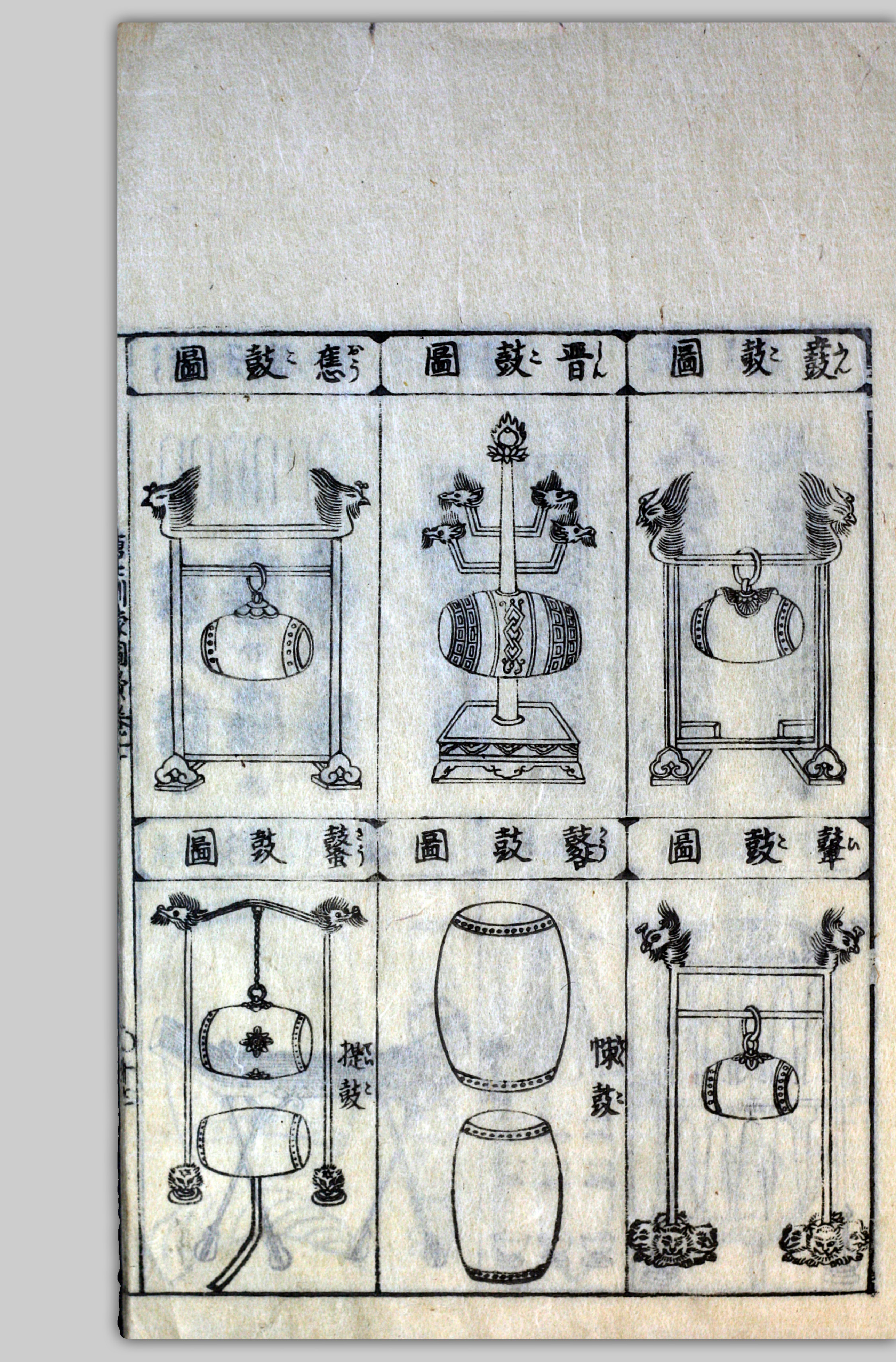


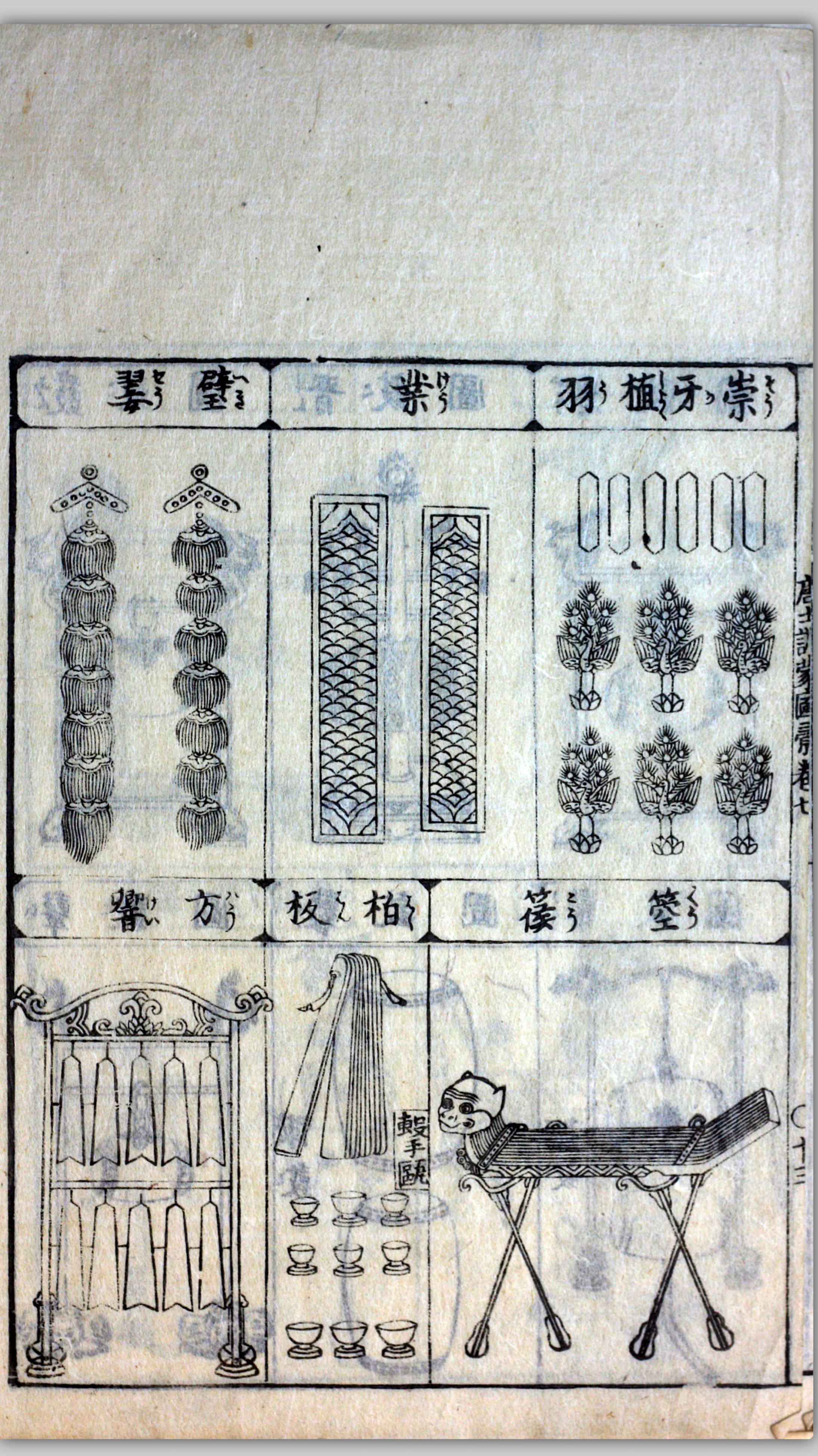
路と鼓



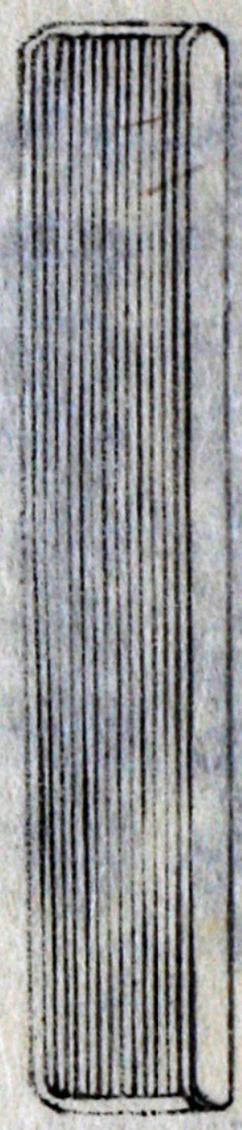
路と鼓と鼓



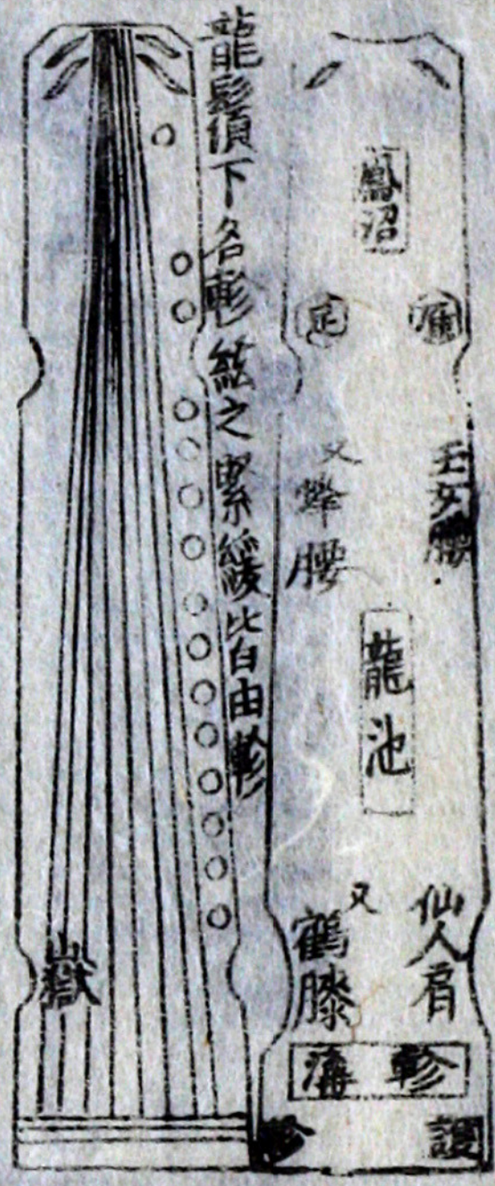

鼓圖
晉鼓圖
鼓圖
鼙鼓圖
鼙鼓圖
鼙鼓圖
懷鼓
搥鼓


壁翠
紫
羽植牙崇
方響
柏板
篌箜
鰕手鹽

筑

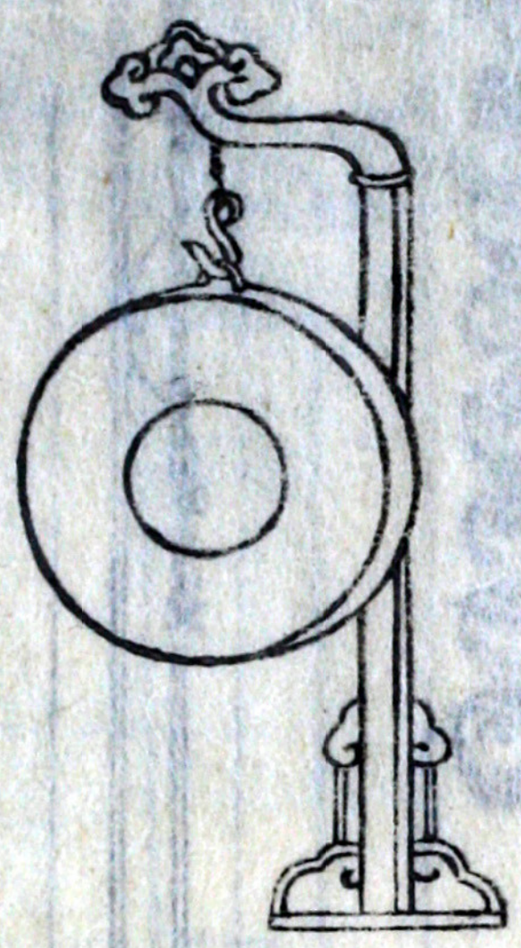


焦尾

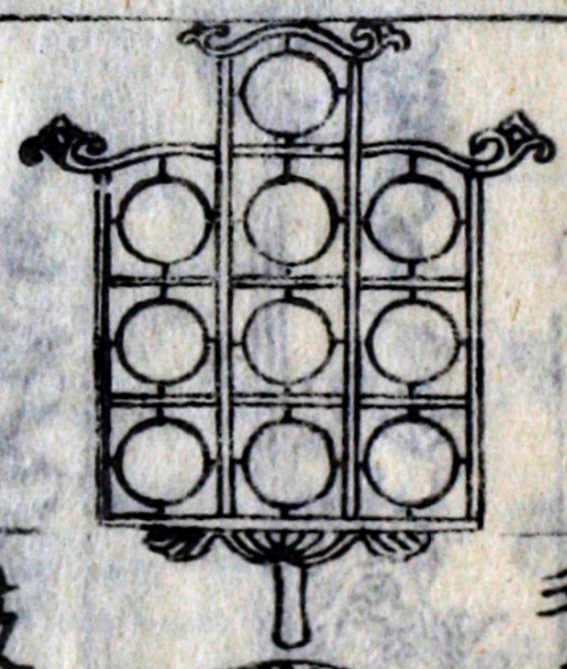


甎子

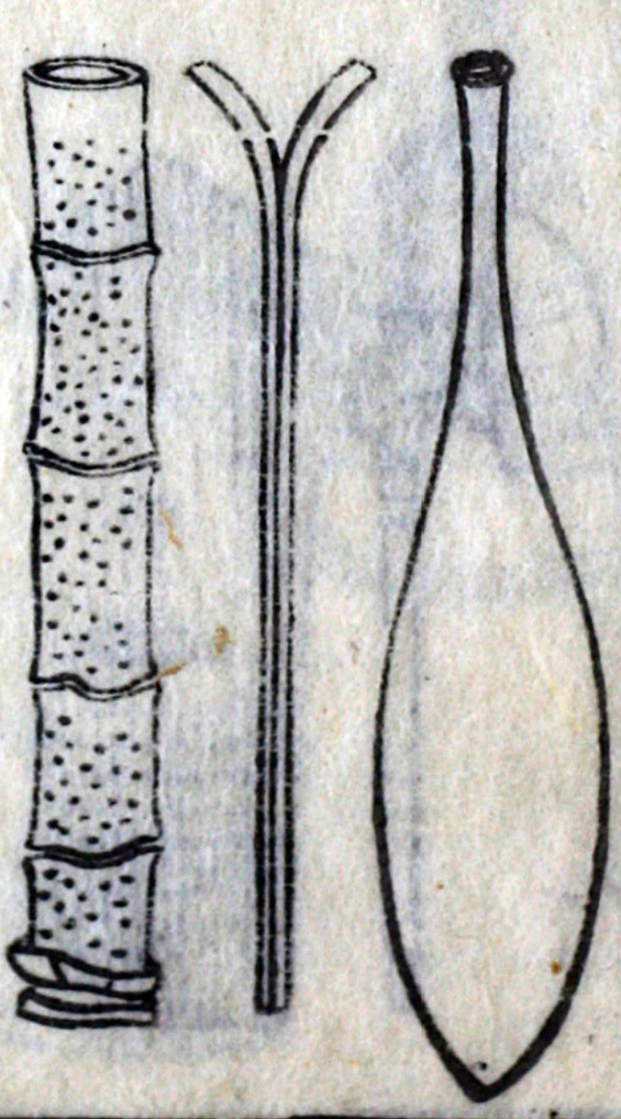
銅鼓



雲鑼



畫角



魚鼓簡子

立鼓

梧桐角

竹銅鼓

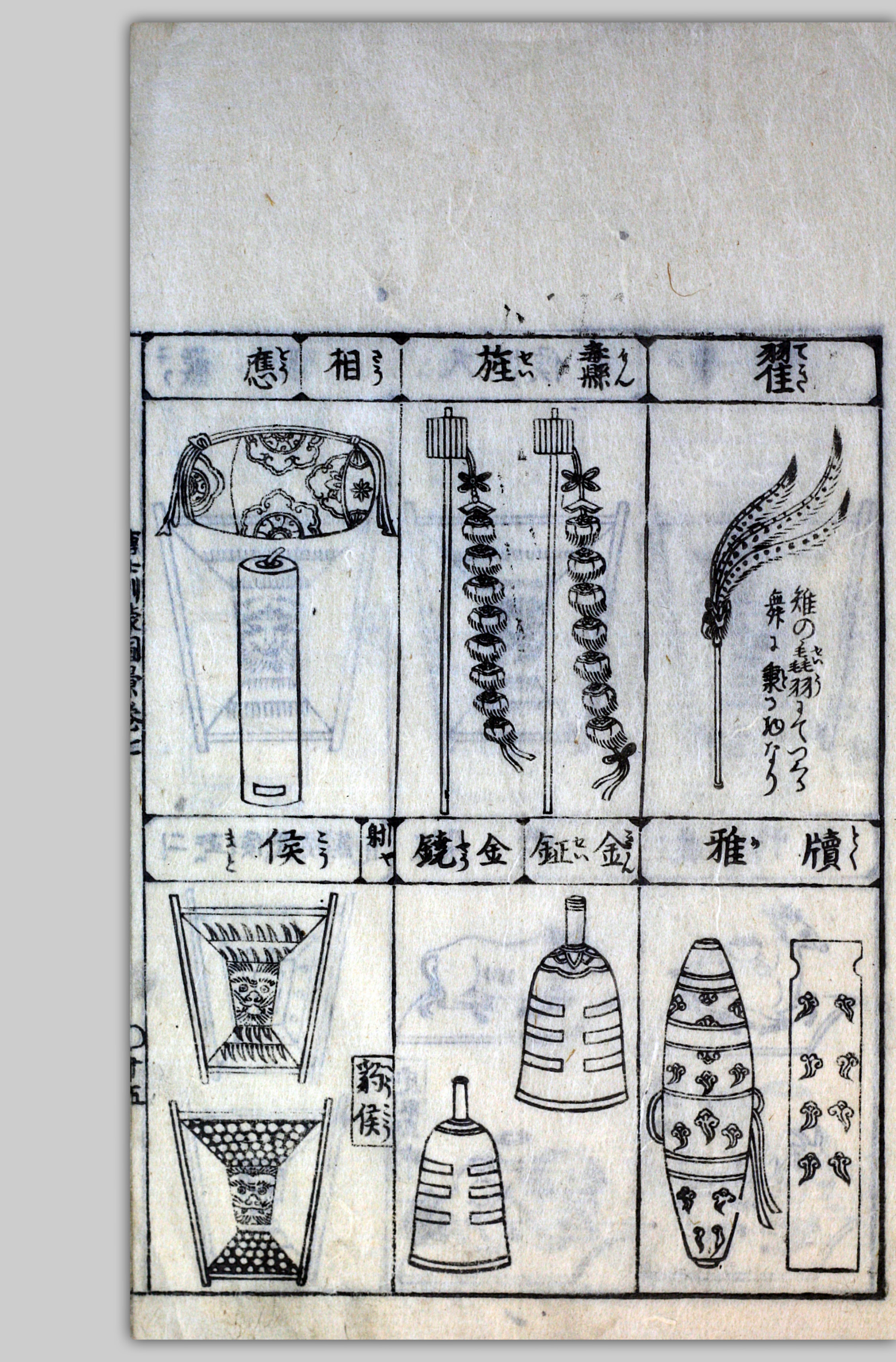
羽舞　皇舞

帔舞　璧翠

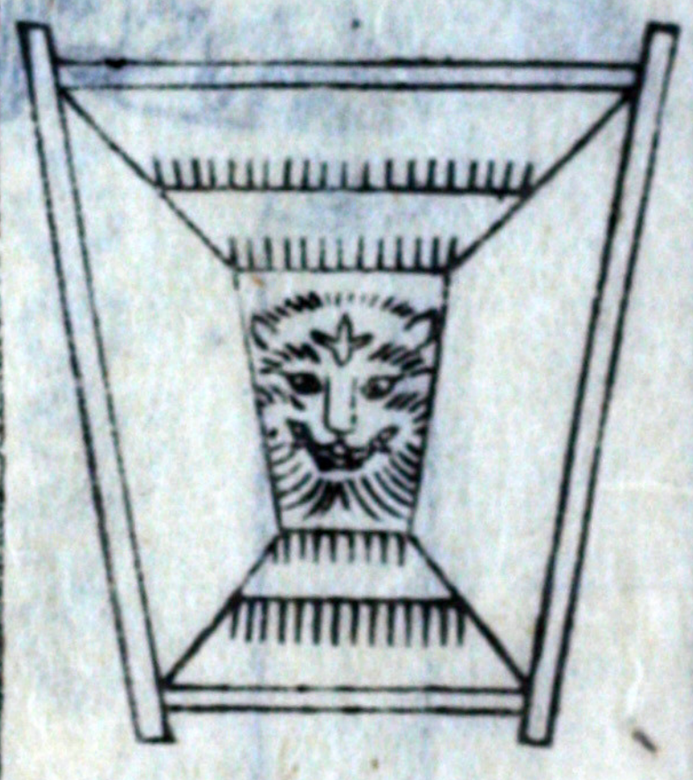
旄舞　戚

干舞

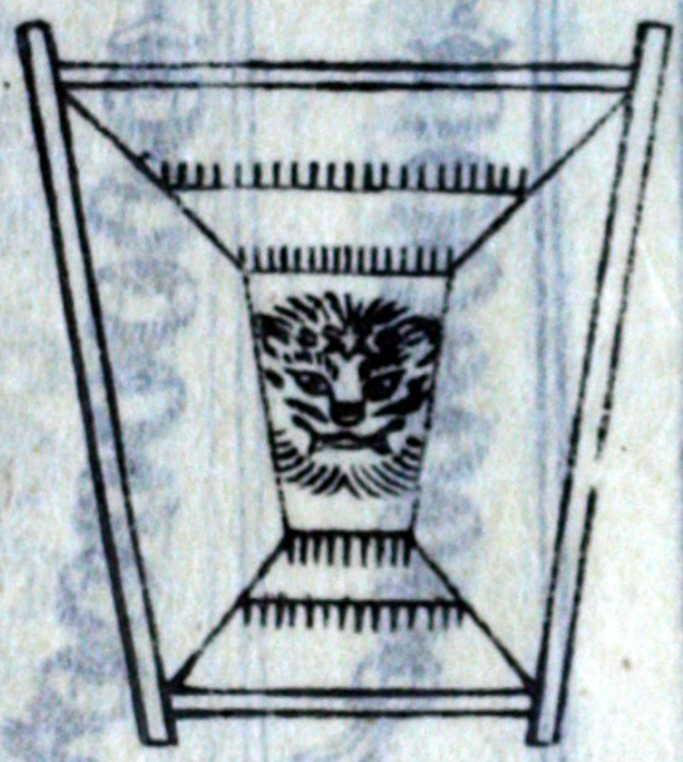
節　麾


雉尾
雉の毛羽にて舞ふ象なり
燕尾
旌
相
應
雅
牘
金鉦
金鐃
射侯
侯
糾侯

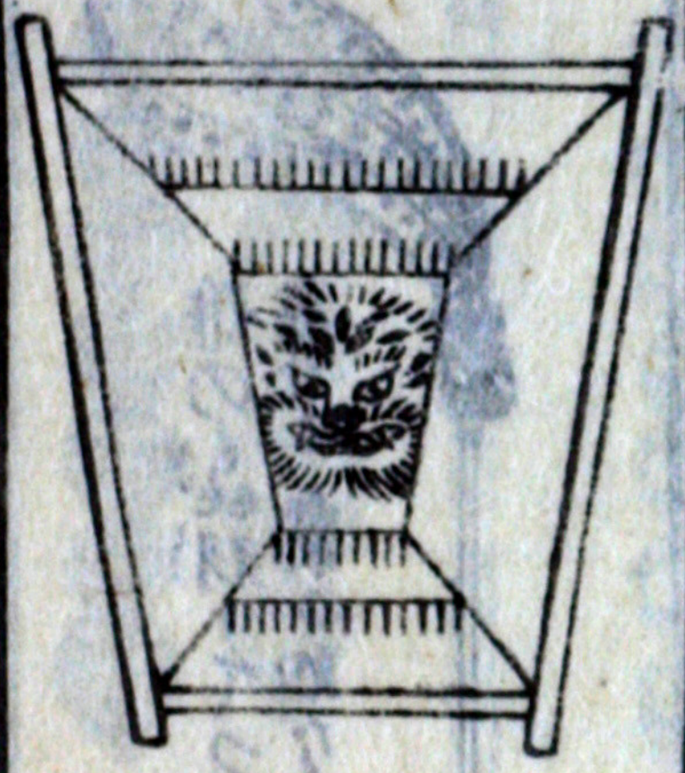
熊侯



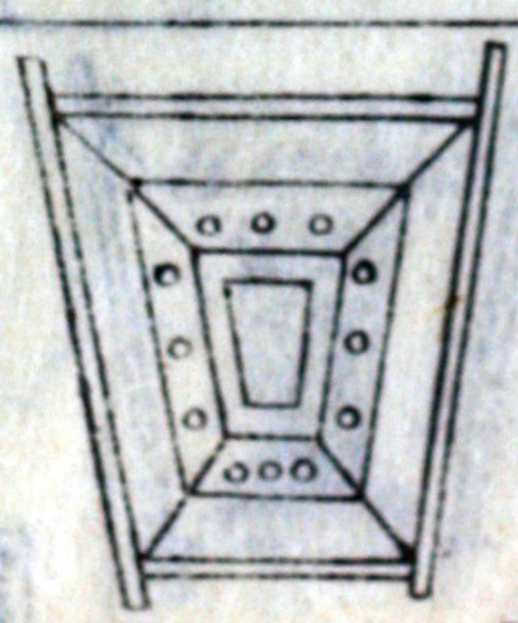
大侯



麋侯



二正侯獸侯熊首



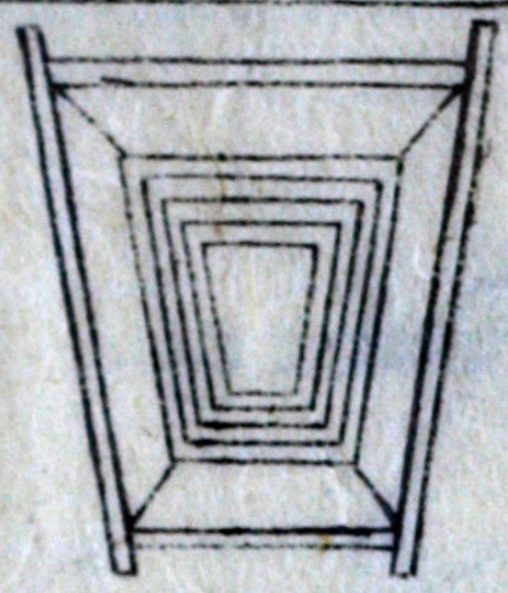
兕中

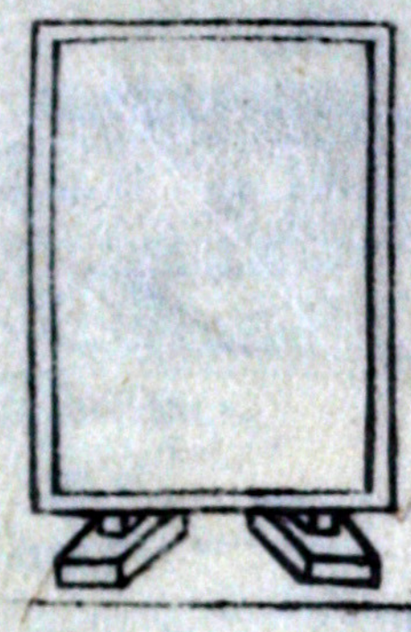
麋皮中

鹿中

麋中

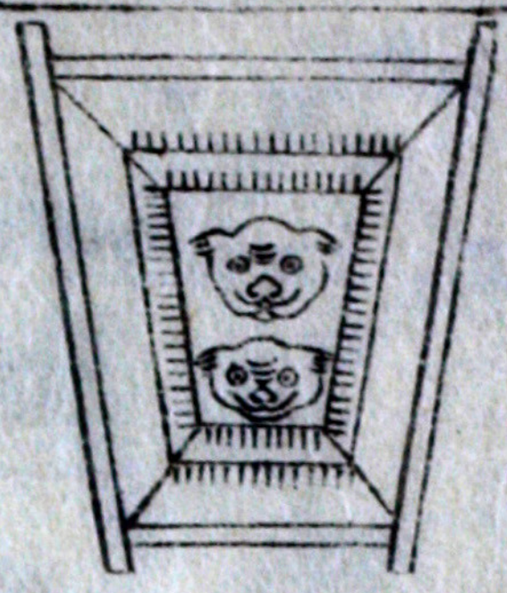
五正侯

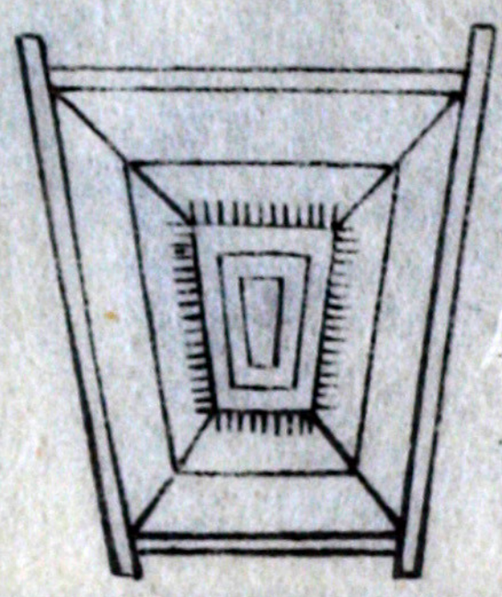




之

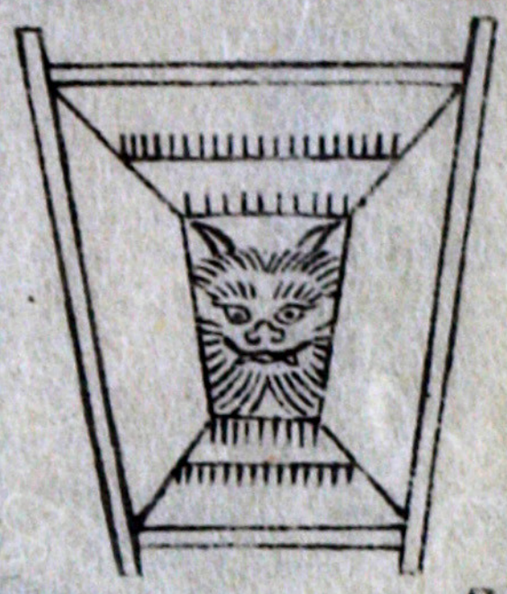
獸侯鹿豕

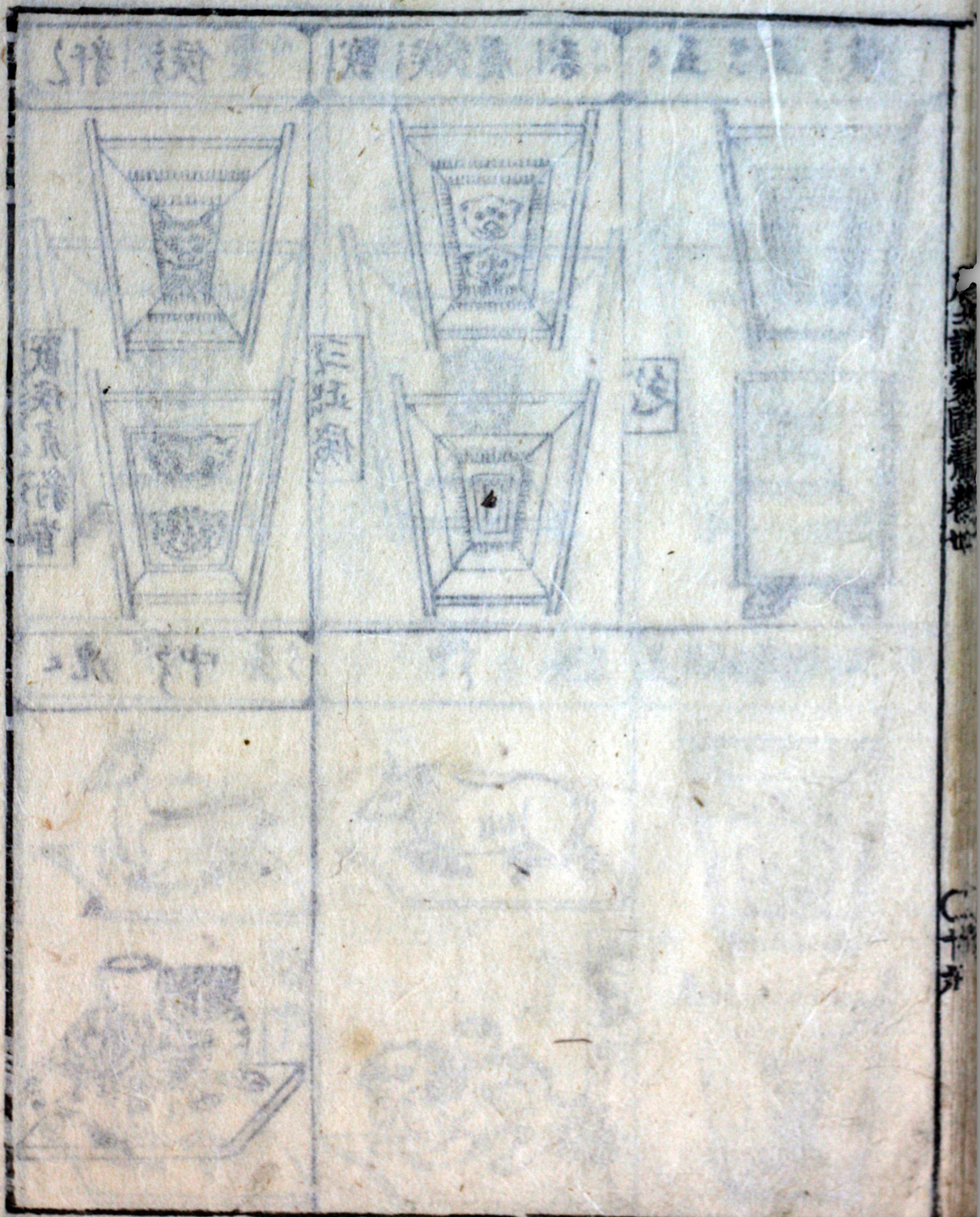




三正侯

貂侯



獸侯虎豹首

虎貂中